

Tb6

31
MARCH
2010

Distribution survey report of the Tonami city vol.6

砺波市遺跡詳細分布調査報告 6

— 般若・東般若 —

2010年3月

富山県 砧波市教育委員会

序

砺波市は、富山県西部の砺波平野のほぼ中央部、大部分が庄川により形成された扇状地上に位置しています。将来の都市像を「庄川と散居に広がる健康フラワー都市」とし、まちづくりの基本理念を「花香り、水清く、風さわやかなまち 砧波」と定め、文化遺産である散村の保護・活用を図るとともに花・水・風をキーワードに自然との調和をもとめ、住民が安心して暮らせる住みよい都市をめざしています。

砺波市では、これまでに旧砺波市域全体を対象とした遺跡詳細分布調査は実施されておらず、平野部の大半が遺跡の希薄な地帯という印象を与えます。これまで偶発的な発見や地域的に特定種別の遺跡の表面調査はなされてきましたが、少ない情報をもとに地域の歴史的環境を語ることはできません。

また、砺波市は近年人口増加とともに開発行為が頻発しており、埋蔵文化財保護の必要性が日々強くなっています。現状のままでは埋蔵文化財行政を運営する上で弊害となりかねません。

旧庄川町では、すでに平成14年度から2カ年をかけて町内遺跡詳細分布調査が実施され、報告書が刊行されています。

そこで、国庫補助事業として7カ年計画で旧砺波市全域を対象とした遺跡詳細分布調査を実施する運びとなりました。

本分布調査の成果をまとめた本書が砺波市の地域史研究ならびに埋蔵文化財保護体制確立の一助となることを願ってやみません。

おわりに、調査の実施および報告書刊行にあたり、般若・東般若地区各自治振興会および砺波市土地改良区、富山県埋蔵文化財センターをはじめ関係各位に多大なるご援助・ご協力をいただきました。衷心より感謝申し上げます。

平成22年3月

砺波市教育委員会
教育長 館 俊博

例　　言

1. 本書は、砺波市教育委員会が国庫補助を受けて 7 カ年計画で実施している市内遺跡詳細分布調査事業の 6 年目（2009 年度）の分布調査報告である。
2. 調査は、砺波市教育委員会が主体となり実施した。
3. 今年度調査は、砺波市般若地区および東般若地区を対象とした。調査期間は次のとおりである。

〔現地調査〕 平成 22 年（2009）2 月 1 日～平成 22 年 3 月 10 日

〔整理作業〕 平成 22 年（2009）3 月 1 日～平成 22 年 3 月 26 日

4. 調査事務局は、砺波市教育委員会 文化財室に置き、学芸員（主任）野原大輔が調査事務を担当し、教育事務局長戸田保が総括した。

調査事務局 砧波市教育委員会 教育事務局長 戸田 保

文化財室 室 長 清澤 康夫

同 文化財係長 平木 宏和

調査担当者 同 学芸員（主任）野原 大輔

5. 現地踏査にあたって、般若地区ならびに東般若地区的各自治振興会に多大なご協力・ご理解を得た。記して謝意を表したい。
6. 現地調査は、株式会社アーキジオに委託して実施した。
7. 資料の整理、本書の編集・執筆は、調査担当者が行った。また、遺物整理・図面作成には、千田友子・幡谷宏美（文化財室）が参加した。
8. 採集遺物および記録資料は、砺波市教育委員会が保管している。

目 次

序 文 例 言 目 次

第 1 章 調査の沿革	1
1 地理的環境と遺跡の分布	1
2 調査に至る経緯	4
3 分布調査の計画	4
4 分布調査の方法	5
第 2 章 調査の成果	9
1 平成21年度調査区の概要	9
2 採集遺物	11
3 遺跡各説	21
東保北遺跡、東保田中遺跡、東保大坪遺跡、東保石坂南遺跡、東保高池遺跡、 宮森道川島遺跡、宮森庵寺、宮森西島遺跡、宮森遺跡、徳万頼成遺跡、 三合宗九郎島遺跡、徳万遺跡、安川二日遺跡、安川宮村遺跡、福山遺跡、 安川正守遺跡、安川野武士遺跡	
第 3 章 まとめ	25
<hr/> 【参考文献】	

表 目 次

- | | |
|-----------------|------------------|
| Tab.1 遺跡数の推移 | Tab.7 採集遺物一覧（3） |
| Tab.2 分布調査の年次計画 | Tab.8 採集遺物一覧（4） |
| Tab.3 採集遺物観察表 | Tab.9 採集遺物一覧（5） |
| Tab.4 中世石造物一覧 | Tab.10 採集遺物一覧（6） |
| Tab.5 採集遺物一覧（1） | Tab.11 調査遺跡一覧 |
| Tab.6 採集遺物一覧（2） | |

図 版 目 次

- | | |
|-----------------------|--|
| Fig.1 研波平野の地形分類図 | |
| Fig.2 埋蔵文化財包蔵地と地形分類図 | |
| Fig.3 瓢状耳飾 | |
| Fig.4 踏査経路模式図 | |
| Fig.5 研波市分布調査範囲図 | |
| Fig.6 調査区周辺の旧版地図 | |
| Fig.7 採集遺物の時期別点数 | |
| Fig.8 遺物実測図 | |
| Fig.9 埋蔵文化財包蔵地と遺物採取地点 | |

写 真 図 版 目 次

- | | |
|--------------|----------------|
| PL.1 空中写真（1） | PL.10 遺物写真（3） |
| PL.2 空中写真（2） | PL.11 遺物写真（4） |
| PL.3 調査写真（1） | PL.12 遺物写真（5） |
| PL.4 調査写真（2） | PL.13 遺物写真（6） |
| PL.5 調査写真（3） | PL.14 遺物写真（7） |
| PL.6 調査写真（4） | PL.15 遺物写真（8） |
| PL.7 調査写真（5） | PL.16 遺物写真（9） |
| PL.8 遺物写真（1） | PL.17 遺物写真（10） |
| PL.9 遺物写真（2） | |

第1章 調査の沿革

1 地理的環境と遺跡の分布

庄川扇状地 研波市は大部分が東部を北流する庄川により形成された扇状地であり、東に旧扇状地右扇の芹谷野段丘、そして射水丘陵から連なる東別所新山山地を控える。庄川扇状地は県内の三大扇状地に数えられ、そのなかでも最大の規模を誇り、面積は 146 km^2 に及ぶ。庄川扇状地には、地理学上著名な散村 (Dispersed Settlement) が広がっており、長閑な田園空間を形成している。

庄川はかつて幾度となく河川変遷を繰り返し、近世に至り現河道に落ちていた経緯がある。天正13年（1585）の大地震によって、庄川町雄神橋付近の弁財天社辺りで千保川・中田川に分流された。現在の庄川が主流になるのは、近世初頭の承応年間（1652～1655）頃の柳瀬普請、続く寛文10年（1670）にはじまる上流の松川除染堤工事を経てのことである。

氾濫原であった平野部は、旧河道が幾条もあり、地形の小起伏が多い。そのため遺跡の希薄な地帯として知られ、遺跡全体の30%に過ぎない。縄文遺跡の分布は、扇頂部に中期中葉の抛点集落・松原遺跡があるが、段丘裾の東保石坂遺跡、徳万遺跡、扇央部の久泉遺跡などが散在する状況である。

弥生・古墳時代は社会基盤が稻作に移行し、生活圏が湧水帯に移動したため、集落は未発見である。わずかに平野東部の低位段丘上にある安川野武士A遺跡で弥生土器が採集されている。

東大寺領莊園 奈良時代になると8世紀中頃に東大寺領莊園が成立し、平野東部を中心に扇央部まで遺跡の分布域が拡大する。莊園本拠に近い久泉遺跡、

秋元窪田島遺跡、徳万賴成遺跡、扇央部には小杉遺跡、千代遺跡、高道向島遺跡、宮村遺跡などが展開し、いずれの遺跡も地理学上でいう“マッド”(mud) 上に存在する。マッドは微高地・自然堤防上に発達した黒色有機質土の堆積域であり、河川氾濫の影響の少ない比較的安定した地形といえる。

般若野莊 中世になると東大寺領莊園の範囲を踏襲して徳大寺家領般若野莊が成立（12世紀中頃か）し、扇央部には油田条（村）が文献にみえる。般若野莊では領家の支配領域と目される位置に東保遺跡（東保高池遺跡）、東保般若堂遺跡があり、周辺に秋元窪田島遺跡、久泉遺跡などがある。

芹谷野段丘 庄川の右岸には台地がひろがり、河川作用によって形成された河成（河岸）段丘が存在している。それらは低位段丘、中位段丘、高位段丘として分類することができる。庄川町庄から宮森までには低位段丘が存在しており、隆起扇状



Fig.1 研波平野の地形分類図 (神島利夫 1982)

地堆積物が形成されている。高位段丘にあたる芹谷野段丘（福岡段丘）は、旧扇状地の右扇の一部が残存し段丘となったものである。南は安川付近から北は大門町串田付近まで約10kmに広がり、福岡の嚴照寺周辺では海拔80mを測る。芹谷野段丘上は、近世に庄川から芹谷野用水が引かれ、集落が展開した。

厳照寺遺跡 段丘縁辺部から丘陵裾にかけて縄文期の遺跡が多く、厳照寺遺跡、高沢島Ⅰ遺跡、高沢島Ⅱ遺跡、宮森新北島Ⅰ遺跡、上和田遺跡などが存在する。厳照寺遺跡は梅楨野窯場整備事業に先立ち昭和50・51年に富山県によって調査が実施されている。堅穴住居跡11棟、埋甕1箇所、穴などが検出され、中期前葉の典型的な弧状集落であることが判明した。出土土器群は、「厳照寺Ⅰ式・Ⅱ式・Ⅲ式」として中期前葉の地域的な編年を確立した。

弥生時代は増山城跡で土器片が発見されており、古墳時代は高沢島Ⅲ遺跡で遺物包含層中から上部器を数点検出している。

梅楨野窯群 奈良時代になると東大寺領莊園に近接することから、須恵器の一大生産地となる。段丘・丘陵一帯にある須恵器窯を総じて梅楨野窯跡群と呼び、南北約2.0kmの範囲に窯が点在し、南の福山支群・北の増山支群に分けられる。増山支群の宮森窯と福山支群の安川天皇窯が最も古く8世紀第2四半期から中葉に位置付けられ、8世紀第3四半期から第4四半期にかけて増山支群の増山龜山窯、増山団子地窯、増山妙覺寺坂窯が操業を始め、同時にには福山支群で福山窯、福山小堤窯、福山大堤窯が操業している。9世紀前半に入ると、小丸山1号窯・2号窯が操業され、9世紀後半から10世紀にかけて正権寺後島窯、増山外貝喰山窯、増山篠山窯、東筆錦野鎌が操業をし、以後梅楨野窯跡群では須恵器生産が衰退する。

庄東山地 芹谷野段丘の東、和田川の両岸には中位段丘が形成されており、和田川流域段丘帯をなしている。和田川は、牛岳の北西側山中に源を発し、庄東山地と芹谷野段丘の間を大きく蛇行し、池原付近で坪野川が合流する。流路延長23.5km、庄川の支流である。昭和43年、和田川総合開発事業により和田川ダムが竣工、和田川は堰き止められて増山湖ができる。

和田川の右岸は、一般に庄東山地（斎川山地）と呼称される範囲に含むことができ、富山県を東西に分断する射水丘陵帶の一枝群を成している。この山地は起伏量が少ない丘陵性小起伏山地であり、地質的には青井谷シルト質泥岩層の範囲に含まれる。南に位置する山地は標高200m余りを最高点として100m余りの小起伏山地で構成されている。この山地の西北に位置する天狗山（標高192m）の北斜面、県民公園頌成の森の緩斜面丘陵は、南側山地からのかつての扇状地性堆積層で構成されている。表層地質としては、砂岩を主体とする下部と無層理青灰色泥岩を主体とする上部から成っている。

増山城跡 和田川右岸の丘陵上には、越中三大山城のひとつに数えられる増山城跡がある。南北朝時代の二宮円阿軍忠状に「和田城」という城名がみえ、亀山城に比定する見方がある。室町時代から放牛津城を本拠とする神保氏の支城となり、天正4年（1576）に上杉謙信に攻略され落城し、天正9年（1581）に織田方に焼き払われた。天正11年（1583）以降、越中統一を果した佐々成政の西の拠点となり、のちに前田方の手に渡り、城の守将となつた中川光重が退老もしくは没した慶長年間まで存続したとされる。また、左岸には城下にあたる増山遺跡（増山城下町遺跡）が広がっている。

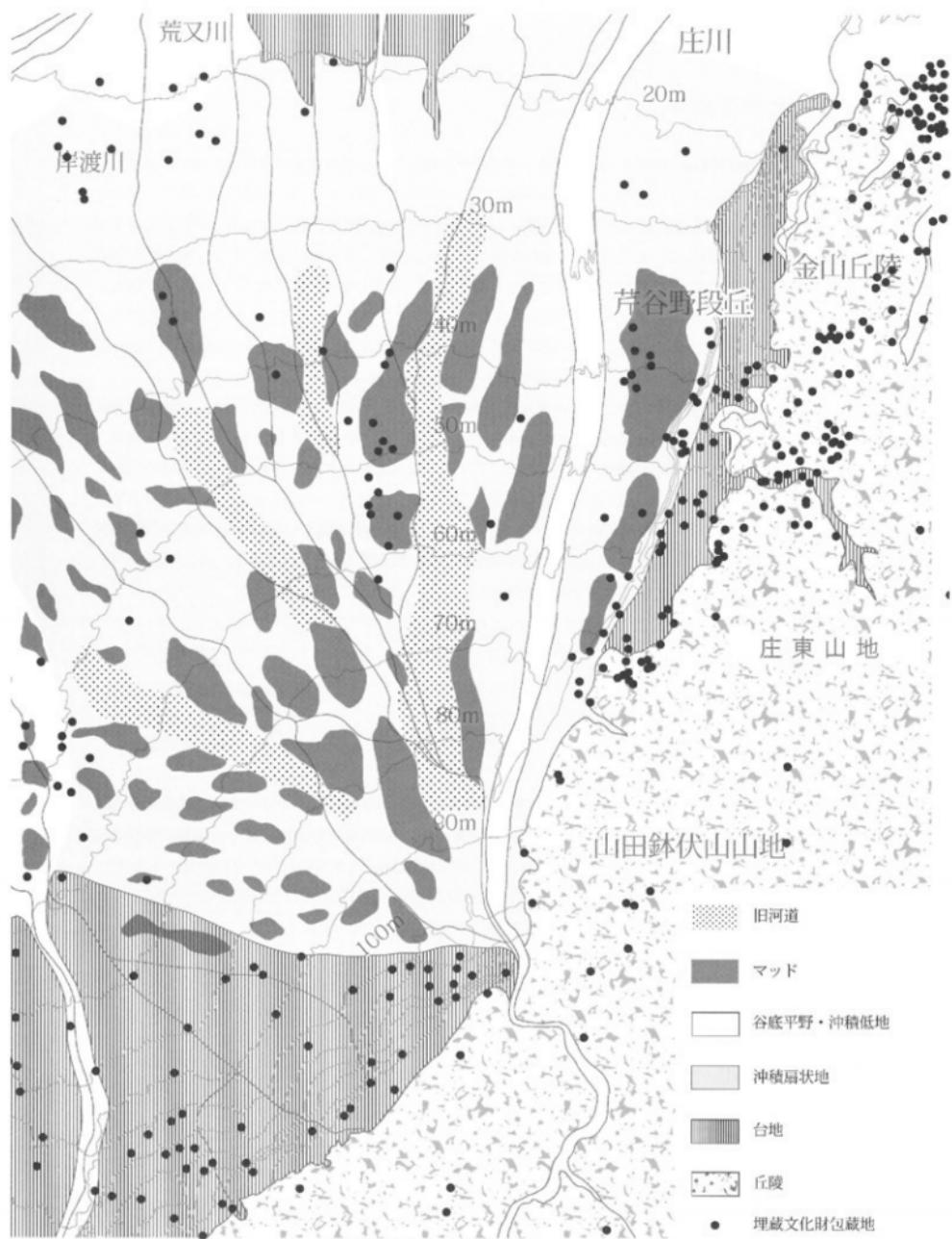


Fig.2 埋蔵文化財包蔵地と地形分類図 (Scale=1 / 75,000)

2 調査に至る経緯

沿革 遺跡地図は、埋蔵文化財の保護・周知化を目的として、これまで作成されてきた。砺波市内の遺跡は、1974年発行の『全国遺跡地図 富山県』ではわずか34遺跡しか確認されていないが、1993年に富山県埋蔵文化財センター発行の『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』では112遺跡に急増している。昭和40年代からの高度経済成長に伴う開発増加、そして全国的な埋蔵文化財保護の気運高揚に起因する。その後『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』を基に加除修正を行っており、現在まで159遺跡を確認している。インターネットを核とする情報化社会への移行に伴い、富山県では平成16年度に「富山県GISサイト」(<http://wwwgis.pref.toyama.jp>)を開設し、最新の埋蔵文化財包蔵地図を広く県民へ周知すべく環境を整えた。

これまで旧砺波市では、旧市内全域を対象とした遺跡詳細分布調査が行われておらず、土木工事による偶発的な発見や市民からの届出、国道敷設等の大規模事業に伴う分布調査等により埋蔵文化財包蔵地の把握に努めてきた。このようにして設定された範囲は決して精度の高いものとは言えず、開発照会がある度に事業用地を踏査してきた。開発行為等の事前協議を進める上で精度の高い遺跡地図は必要不可欠であり、埋蔵文化財の保護・活用の観点からも遺跡地図の充実は急務である。また遺跡の分布状況は、考古学研究の基礎資料である。以上の事由から、遺跡詳細分布調査を実施する運びとなった。

Tab.1 遺跡数の推移

発行機関	発行年	図名
文化財保護委員会	1965	『全国遺跡地図(富山県)』
富山県教育委員会	1972	『富山県遺跡地図』
文化庁文化財保護部	1974	『全国遺跡地図 富山県』
富山県埋蔵文化財センター	1993	『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』

旧庄川町の 領域では国庫補助を受け、合併前の平成14～16年度の3カ年で町内遺跡詳細分布調査を実施している¹(現地調査2年、報告書1年)。町内を4地域に分割し、開発が予想される平野部に重点を置き調査が行われ、13遺跡の新規発見と2遺跡の台帳内容変更がなされた。採集遺物は463点を数え、約半数が庄川左岸の段丘上に分布することを把握している。

著名な金屋ポンポン野遺跡付近で繩文時代前期後葉・蜆ヶ森II式期の玦状耳飾(蛇紋岩製)を1点採集している。

1) 庄川町教育委員会 2004 『富山県庄川町埋蔵文化財分布調査報告』

3 分布調査の計画

旧庄川町域を除く市内全域(96.33km²)を対象として、現地踏査を7カ年計画で実施する予定である(右表参照)。旧砺波市には、計17地区あり、踏査可能面積を考慮し各年度2～3地区ごとに調査を実施することにした。調査地区の設定は、開発行為が多く、埋蔵文化財包蔵地が希薄な地区を先行し、旧砺波市域の南西から北西部、中央部を縦断し庄川を越えて東部、段丘上・山間部という計画を策定した。

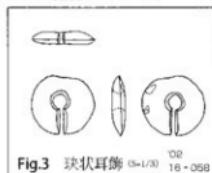


Fig.3 现状耳饰 (3a-1/3) 16-058

Tab.2 分布調査の年次計画

調査年度	年次	調査地区	面積 (km ²)
平成 16 年度 (2004)	1 年次	鷺栖、東野尻、五鹿原	14.43
平成 17 年度 (2005)	2 年次	出町、若林	9.26
平成 18 年度 (2006)	3 年次	林、高波	10.88
平成 19 年度 (2007)	4 年次	庄下、油田、南般若	11.08
平成 20 年度 (2008)	5 年次	柳瀬、太田、中野	13.22
平成 21 年度 (2009)	6 年次	般若、東般若	13.53
平成 22 年度 (2010)	7 年次	梅楢野、梅楢山	23.91
			96.33

4 分布調査の方法

踏査の方法 考古学的調査として、地表面の踏査を行い遺物採集に努め、遺構・遺物の広がりや分布状況を把握する手がかりとした。砺波市の平野部は大部分が庄川扇状地によって形成され、大小河川の氾濫が現在の地形状況を生んでおり、古代以前の遺跡立地に大きく反映するという特性がある。遺跡分布と地形状況は表裏一体の関係にあるといつても過言ではない。しかし、旧砺波市では昭和 30 年代後半から県内に先駆けて大規模な圃場整備が行われており、本年度調査区もすでに整備完工されている。かつての景観は失われ、本来の地形的微起伏を確認することはできない。同時に多くの遺跡も保存されることなく破壊された可能性が高い。

そこで、近年の地形改変とこれまでの踏査経験から、遺物の表面採集自体が困難と予想されるため、「なるべく多くの目で多くの遺物を採集すること」と調査の迅速化を目的として、富山大学考古学研究室の院生・学生の協力を得て、下の模式図のように踏査経路をとることにした。扇状地上の圃場整備後の水田は、大型機械導入のため 1 区画 30 a (短辺 30 ~ 40 m × 長辺 100m) の規格を持ち、水廻り効率から短辺が磁北 (流路方向) もしくは南東→北西に設定されている。1 班 5 名の体制で 1 区画の踏査にあたり、横並びに短辺方向に沿って歩くことを基本とした。水田畦畔には積年の耕作の結果、遺物が集在する可能性が高いことから、各調査員はできる限り畦畔を踏査経路に組み入れることに努めた。

遺物の扱い 採集遺物は番号を振り、洗浄・注記・接合・実測作業を行った。注記表現は、「砺波市分布調査 6 年次(Tonamishi-Bunputyosa 6)」から、「TB - 6」とした。現地踏査では、携帯が簡便なゼンリン住宅地図 2000 (株式会社ゼンリン北陸) にその場でプロットし、踏査後に砺波市都市計画図 (1/2500) に写した。遺物は、班ごとに番号を振り、全体の踏査完了後、すべての遺物に通し番号を付した。大半の遺物が細片であるため、実測可能な個体を選別して図化している。

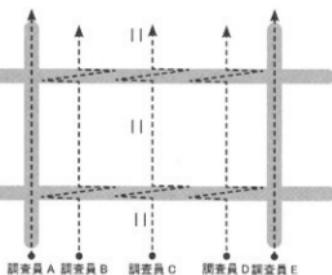


Fig.4 踏査経路模式図

包 藏 地 の 認 定 埋蔵文化財包蔵地の認定には、考古学的調査成果に限らず歴史地理学的・自然地理学的資料等の諸要素を考慮する必要がある。

平成 10 年 6 月に報告された「埋蔵文化財の把握から開発事業の発掘調査に至るまでの取り扱いについて」の中で法律上の保護対象となる「周知の埋蔵文化財包蔵地」は試掘・確認調査その他の発掘調査等の成果に基づき高い精度で把握・決定されることが必要であるとされており、その方法として、遺物の散布状況や地形の観察、地形・地質の形成過程を踏まえ、各時代の生活・生業に適した立地の想定、地形図・空中写真・地籍図・絵図等の資料等の総合的な活用が挙げられている。

実際に岐阜県大垣市教育委員会では、平成元年から平成 8 年度までに実施された分布調査において、踏査を中心とする考古学的調査だけでなく、「時代ごとの地形復元図を作成する自然地理学的調査、絵図や地籍図（字絵図）から地表面下の痕跡を推定する歴史地理学的調査、そして低地での発掘ではまず最初に出会いうる瀧瀧れ等の輪中景観を復元する人文地理学的調査」といった地理学的手法を援用し、遺跡推定の検討材料としている¹。市域の大半が扇状地であり、「沖積地での踏査の困難さ」を指摘される点など、当市と非常に素地は似ている。大垣市教育委員会の分布調査手法は理想形とも言うべき取り組み方であるが、諸般の事情から当市で同じ手法を採用することは難しい。少しでも理想に近づけるため、当市では以下の手法を探り、埋没遺跡の範囲決定の手がかりとした。

- 1) 考古学的調査（踏査）
- 2) 歴史地理学的調査（旧字界・字名図作成）
- 3) 自然地理学的調査（従前図判読、地形分類調査）

考古学的調査の方法は、先述のとおりである。旧字名・字界図は、主に砺波郷土資料館蔵の字絵図や『砺波市史 資料編 5 集落』²から字名・字界を抽出し、旧地形図（昭和 30 年代砺波市作図）・現況地形図（平成 5 年砺波市作図）に情報を入力、必要に応じ議者から聞き取り調査を行った。

また、自然地理学的調査では、土地改良区に保管されている圃場整備前の従前図を収集し、失われた地形状況の復元を試みた。現況での地形確認が難しいため、旧地形を把握するには従前図を活用することが有効である。圃場整備前の空中写真から旧地形図・等高線図を作成することは技術的に可能であるが、費用的問題から断念した。従前図は、公園を基に作られているものや現地測量が行われているものなど精度にばらつきはあるが、基本的に縮尺が 1/500 もしくは 1/1000 であるため、空中写真よりはるかに現況図面との整合が容易である。ただし、圃場整備が行われた全地区に従前図が作成・保管されていない難点もある。

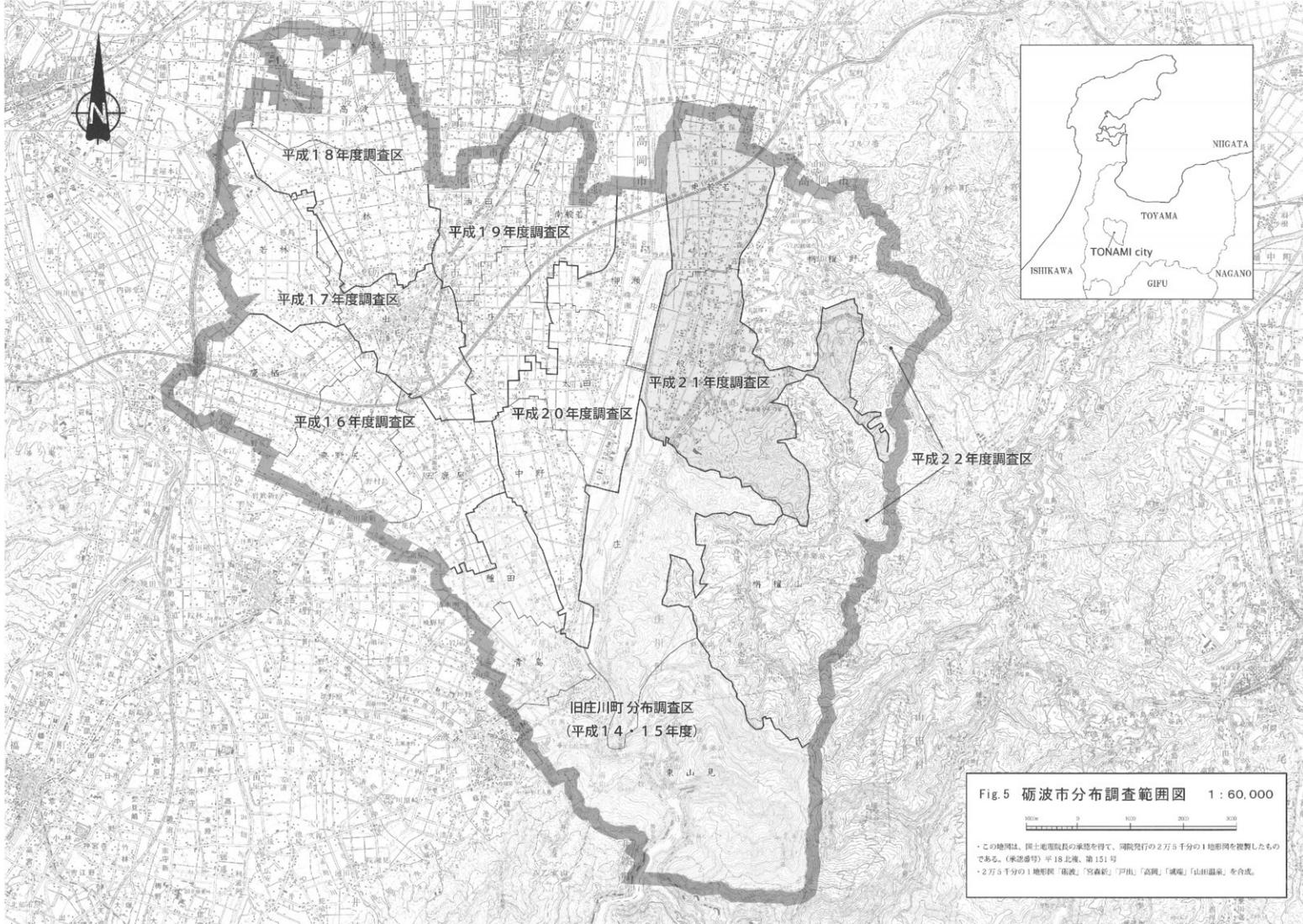
地形分類調査は、『土地分類基本調査 城端』（富山県 1981）をはじめとする地形分類図・表層地質図に拠っている。また、マッドと呼ばれる黒土層について、外山秀一氏の論文「プラント・オパールからみた砺波平野の土地利用と黒土層の特性」³を参考としている。

1 岐阜県大垣市教育委員会文化部 1997 『大垣市遺跡詳細分布調査報告書・解説編』

2 砧波市史編纂委員会 1996 『砺波市史 資料編 5 集落』

3 外山秀一 1997 「プラント・オパールからみた砺波平野の土地利用と黒土層の特性」

『砺波散村地域研究所研究紀要第 13 号』砺波市立砺波散村地域研究所



第2章 調査の成果

1 平成21年度調査区の概要

般若 般若地区は、安川、茶ノ木、頼成、徳万、三合、徳万新、福山で構成される。現在の庄川右岸の平野部にあたる安川、頼成、徳万は、扇状地と低位段丘に立地する。茶ノ木、三合、徳万新、福山はその東に展開する芹谷野段丘と庄東山地に存在する。繩文時代には草創期の石槍が福山大堤遺跡で採集されており、中期から後期になると頼成遺跡や徳万遺跡が現れる。福山大堤遺跡では弥生土器も見つかっている。般若と東般若の両地区は、奈良時代に占定された東大寺領荘園の比定地である。砺波平野東部に石粟荘、伊加流伎（伊加留岐）荘、井山荘が8世紀中葉以降に成立しており、東大寺正倉院等に残る開田地図がその詳細を今に伝える。芹谷野段丘縁辺から庄東山地にかけて梅檀野窯跡群と呼ばれる須恵器の窯群があり、瓦塔等が出土した福山窯、福山小堤窯、福山大堤窯、安川天皇窯で構成される福山支群が形成されている。この時期、平野部には集落遺跡が出現する。安川野武士遺跡、安川山下遺跡、薬勝寺遺跡、徳万遺跡、徳万頼成遺跡などは荘園成立と期を同じくして造営された集落であろう。また、東大寺領荘園が衰退したのち、11世紀代には徳大寺家領般若野荘が成立したと考えられる。般若野荘が徳大寺家領となるのは徳大寺公能が越中國守に任命された平安時代末の大治元年（1126）ごろとされている。市内に残る「般若」の地名は、中世に成立した般若野荘に由来するものである。安川天皇山遺跡や徳万頼成遺跡など中世の遺跡が知られるが、薬勝寺の近くには公卿九人塚とよばれる中世石造物があり、越中下向の際に殺害された徳大寺実通は薬勝寺に葬られている。このことは下地中分後、荘域の南部が領家方であったことの証左と考えられる。

東般若 東般若地区は、東保、本小林、東、宮森、権正寺、八十島新、八十歩で構成される。芹谷野段丘崖の裾に立地する東保石坂遺跡からは、繩文土器、打製石斧、磨き石などが出土している。中期中葉になって段丘下まで生活範囲を広げたか、人々が移動してきて形成された遺跡と評価されている。時代を隔てて、奈良時代から平野部では遺跡数が増加するが、集落遺跡と同じく8世紀代に須恵器生産も始まる。梅檀野窯跡群中でもっとも早く操業を開始したのは宮森窯と考えられ、8世紀第2四半期の年代が与えられている。中世になると、高坪遺跡・東保般若堂遺跡から珠洲が出土しており、中世前期の十師器皿が大量に出土した東保遺跡（東保高池遺跡）や中世の館跡である館の土居などとともに、遺跡が多い。宮森庵寺からは、昭和47年、昭和54年に銅製仏具が発見されている。発見された仏具は独鉢杵、金剛盤、瀧水器、じゅうまいき塗香器、關伽桶、提子の6器種9点で、いずれも密教法具である。これらの遺物は15世紀前後に位置付けられ、『越の下草』にある真言の大道場、法光山水精寺に関わる可能性がある。館の上居は、現在は公民館のそばに塚状の高まりを留めるに過ぎないが、かつては65×75mの方形区画があり、外周に5～6mの堀が巡っていたと推測される。館跡の南にある照円寺の縁起によると、ここがかつて般若郷の地頭多智民部大輔政道の館であり、増山城主神保氏のために没落したとの伝えが記されている。寛保元年（1741）に中条村から出土した常福寺鐘銘には「般若野庄地頭方東保郷」とあり、東保が般若野荘の下地中分による地頭方であったことを証している。



Fig.6 調査区周辺の旧版地図

この地図は、國土地理院長の承認を得て、同院発行の2万分の1旧版地図を複製したものである。(承認番号)平18北緯第151号

2 採集遺物

- 遺物構成** 採集遺物の時期別点数は、縄文 23 点、古代 122 点、中世 236 点、近世 162 点、近代・時期不明点 268 点、合計 811 点である。種類は、縄文土器、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、越中瀬戸、瓦、陶磁器、石製品等で構成される。遺物割合は、縄文 2.8%、古代 15.0%、中世 29.1%、近世 20.0%、近代 33.0%となる。
- 分布状況** 般若地区・東般若地区は古代においては東大寺領莊園の比定地であり、中世には徳大寺家領般若野荘が成立した故地であるため、ある程度の遺物採集は期待されたが当初の予想をはるかに超えた分量の遺物が採集できた。般若地区では、庄川に近い右岸堤防沿いには遺物が少ないものの、主要地方道新湊・庄川線以東域には古代・中世の遺物が多い。安川では野式土・親王塚のある藥勝寺付近に新たな遺跡の存在がうかがえ、般若中学校周辺部には古代・中世の遺物が濃密に分布する。福山窓の前面水田や三合にも東般若地区では、宮森の大森清水川神社北側一帯、宮森庵寺周辺、東保遺跡周辺、東保石坂周辺、東保田中周辺などで遺物の集中分布が確認できる。
- 遺物解説** 須恵器は 9 点固化している。655 は杯蓋で口径が 13.6 cm を測ることから田嶋明人氏の編年 IV 期以降、8 世紀第 3 四半期以降と考えられる。口縁端部を丸くおさめるタイプで、174 も同様である。578 は無台杯（杯 A）と考えられる。外傾度と椀状となる体部の立ち上がり具合から、田嶋編年 V 期、9 世紀前半に相当すると思われる。585 は有台杯（杯 B）で、底径は 7.4 cm を測る。525・380 は杯であるが、口縁部片であるため、高台の有無は不明である。外傾度から 578 と同時期とみられる。168・212・691 は甕類である。212 は甕の頭部に近い部分で、外面には格子目状叩き目、内面には同心円状叩き目を施している。691 は甕の口縁部であり、口縁端部を屈曲し、ほぼ垂直に立ち上げて収めている。田嶋編年 V 期、9 世紀前半に相当すると考えられる。次に珠洲について触れる。144・32・625 は鉢である。いずれも口縁部である。144 は口縁部があまり内湾しないタイプで、口縁端部は方頭となる。吉岡康暢氏の編年 I～II 期に該当すると考えられる。32 は口縁端部の断面が三角形状となり、肥厚している。端面が広いこのタイプは、吉岡編年 V 期に相当すると考えられる。625 は吉岡編年 IV～V 期と考えられる。484・146 は壺の口縁部である。48 は唯一の甕口縁部片で、口縁端部がやや肥厚するものの、口頭を深く折り返し、端部の挽き出しも認められることから、吉岡編年 III 期に該当すると考えられる。351・290・477 は体部片で、いずれも外面には平行叩き目がみられる。110 は壺の底部片である。266 は青磁の香炉と思われる口縁部片である。248 は同地点から採集された中世の土師器皿である。12 世紀後半から 13 世紀前半頃の所産と考えられる。近世陶磁器類は、越中瀬戸の比率が高い。311 は皿で、見込みに菊の印花文が施されている。

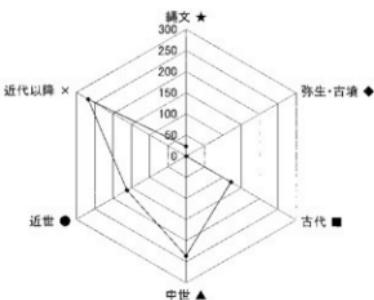


Fig.7 採集遺物の時期別点数

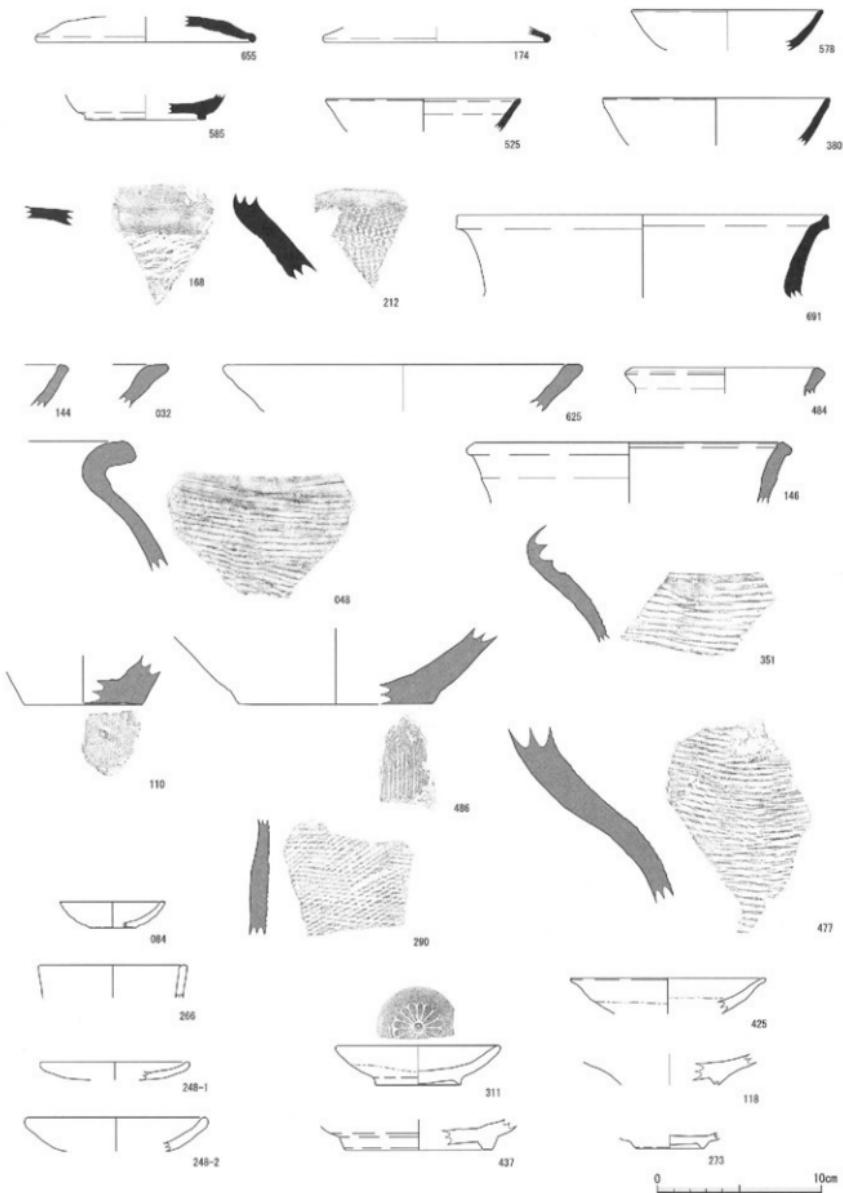


Fig.8 遺物実測図 S = 1 : 3

Tab.3 採集遺物観察表

遺物番号	地区	字名	遺物情報	器種	口径	器高	底径	採集日	備考
32	東保	田中	珠洲	鉢	-	(2.6)	-	2/2/2010	
48	東保	田中	珠洲	甕	-	(7.9)	-	2/2/2010	
84	東保	防村	磁器	皿	(6.4)	1.6	(2.8)	3/1/2010	
110	東保	大坪	珠洲	壺	-	(3.0)	(7.2)	3/3/2010	
118	東保	防村	越中瀬戸	皿	-	(1.9)	-	3/2/2010	
144	東保	大坪	珠洲	鉢	-	(2.6)	-	3/3/2010	
146	東保	大坪	珠洲	壺	(18.8)	(3.7)	-	3/3/2010	
168	東保	大坪	須恵器	甕	-	(1.1)	-	3/2/2010	
174	東保	石坂	須恵器	蓋	(13.7)	(0.9)	-	3/2/2010	
212	東保	石坂	須恵器	甕	-	(5.2)	-	3/2/2010	
248-1	東保	高池	土師器	皿	(8.9)	(1.1)	-	3/2/2010	
248-2	東保	高池	土師器	皿	(10.9)	(2.1)	-	3/2/2010	
266	東保	高池	青磁	香炉?	(8.8)	(2.0)	-	3/2/2010	
273	東保	大坪	越中瀬戸	皿	-	(1.0)	(4.1)	3/2/2010	
290	東保	高池	珠洲	甕	-	(7.0)	-	3/3/2010	
311	宮森	下村	越中瀬戸	皿	(9.9)	2.45	(5.0)	3/3/2010	菊の文様がある
351	宮森	下村	珠洲	甕	-	(7.1)	-	3/3/2010	
380	宮森	下村	須恵器	壺	(13.7)	(2.9)	-	3/3/2010	
425	宮森	下村	越中瀬戸	皿	(5.8)	(2.2)	-	3/3/2010	
437	宮森	上村	越中瀬戸	皿	-	(1.9)	(9.2)	3/3/2010	
477	宮森	上村	珠洲	甕	-	(10.7)	-	3/4/2010	
484	徳万	上村	珠洲	壺	(11.3)	(1.8)	-	3/5/2010	
486	宮森	上村	珠洲	鉢	-	(4.7)	(12.0)	3/4/2010	
525	頼成	正覚	須恵器	壺	(11.8)	(2.0)	-	3/5/2010	
578	徳万		須恵器	壺	(11.5)	(2.5)	-	3/5/2010	
585	徳万		須恵器	壺	-	(1.5)	(7.4)	3/5/2010	
625	頼成	坂東	珠洲	擂鉢	(21.7)	(3.1)	-	3/6/2010	擂目が見られる
655	徳万		須恵器	蓋	(13.6)	(1.6)	-	3/6/2010	
691	徳万		須恵器	甕	(22.6)	(5.1)	-	3/4/2010	

Tab.4 中世石造物一覧

宝鏡印塔

*は撮影できなかったもの

番号	名称	所在地	形態・状態	笠 (高さ)	笠 (幅)	右質	備考	時期 (市史)
20	觀玉塚塔	安川・薬勝寺南墓地	相輪・笠・塔身の残存	29	33	凝灰岩		
20	藥勝寺塔	安川・薬勝寺南墓地	笠のみ残欠	30	29	凝灰岩		
21	藥勝寺參道塔	安川・薬勝寺 *	笠のみ残欠	17	24	凝灰岩	確認できず	

五輪塔

*は撮影できなかったもの

番号	名称	所在地	側体數 ※括弧内は市史に記載されている数	備考	時期 (市史)
1	鏡音堂塔	東保・田中・觀音堂	空風輪(1) 火輪2 水輪2	浅草觀音堂	
2	東保山共同墓地塔	東保・田中	空風輪2(5) 火輪1(1) 水輪1(3) 地輪1(1)		
3	長久正治塔裏塔	東保・大坪	空風輪5 火輪5 水輪2	新規 墳墓の名残りで円形の地形が残る	
4	江文成建塔	東保・大坪	空風輪2 水輪3	新規 近くの水田由出上	
5	淨光寺内塔	東保・大坪・淨光寺	空風輪1(1) 火輪1(1)		
6	東保石板共同墓地塔	東保・石坂	空風輪2(3) 火輪2(2) 水輪2(2) 地輪2		
7	石崎治老塔	東保・石坂 *	空風輪3(3) 火輪1(1) 水輪3(3)	存在は確認	
8	宮森上村共同墓地塔	宮森・下村	空風輪9(30) 火輪6(18) 水輪3(12) 地輪2(6) 一石五輪塔 O(1)	宮森共同墓地南塔・北塔 (市史)	
9	宮森下村共同墓地塔	宮森・上村	空風輪5 火輪5 水輪2 地輪5	新規	
10	八歩公民館地蔵堂塔	八歩	空風輪1(1) 水輪1	八十歩公民館の駐車場 にある	
11	八歩共同墓地塔	八歩	空風輪1(1) 火輪1(1) 水輪1(2)		
12	権止寺共同墓地塔	権止寺	空風輪1(3) 火輪1(1) 水輪2 地輪1(1)		
13	賴成公父名共同墓地塔	賴成・公父名	空風輪2	新規	
14	賴成坂東共同墓地塔	賴成・坂東	空風輪1(1) 火輪1(1) 水輪1(1) 地輪1(1)		
15	徳方北共同墓地塔	徳方	空風輪1 火輪3(2) 水輪1 地輪1(1)		
16	徳万両共同墓地塔	徳方	空風輪3(3) 火輪1(3) 水輪1(3) 地輪1(1)	徳方共同墓地東塔 (市史) 合南北朝期 徳方公民館北	
-	片山等宅塔	徳方新 *	空風輪1(1) 火輪1(1) 水輪1(1) 地輪1(1)	現在不在のため確認で きす。	
17	天高神社境内塔	三合	火輪1(1)		
18	天高神社東地蔵堂塔	三合新	空風輪1(1) 火輪0 水輪1(1) 地輪0		
19	藥勝寺北草場地塔	安川・正盛	空風輪1(1) 火輪3(3) 水輪4(4) 地輪0		
20	藥勝寺南墓地塔	安川・正盛	空風輪14(11) 火輪16(18) 水輪10(11) 地輪7(6) 一石五輪塔1(1)		合南北朝期
21	藥勝寺參道	安川・正盛・藥勝寺	水輪2	新規	
22	公卿冢塔	安川・正盛	空風輪7(7) 火輪1(2) 水輪10(10) 地輪6(6)	改修が行われた	
23	安川二日共同墓地塔	安川・二日	空風輪1	新規	
24	安川宮村共同墓地塔	安川・宮村	空風輪4(4) 火輪1(2) 水輪1(3)	安川西貝同墓地 (市史)	
25	安川北共同墓地塔	安川・北	空風輪2(2) 火輪3(4) 水輪1(1) 地輪1(1)		
26	谷内裕太宅塔	茶ノ木	空風輪1(1) 火輪1(1) 水輪1(1) 地輪1	市史は谷内久剛宅塔と 記載	
	荒貝少藏宅塔	茶ノ木 *	火輪1(1)	所在不明	

石仏

*は撮影できなかったもの

番号	尊名	所在地	姿勢・形法	高さ	幅	石質	備考	時期 (市史)
5	如意形仏	東保・大坪・淨光寺	座浮	48	36	砂岩質		南北朝・室町
5	如意形仏	東保・田中・淨光寺	座浮	52	32	砂岩質	現在は淨光寺内に安置	南北朝・室町
6	如意形仏	東保・石坂共同墓地	座浮	37	27	砂岩質		南北朝・室町
10	如意形仏	八歩・公民館地蔵堂	座浮	36	23	砂岩質		南北朝・室町
20	如意形仏	安川・藥勝寺南墓地	座浮	34	25	砂岩質		南北朝・室町

板石塔婆(板碑)

*は撮影できなかったもの

番号	名称	所在地	形態・状態	笠 (高さ)	笠 (幅)	右質	備考	時期
5	淨光寺	東保・大坪	方錐形	46	17	砂岩質	淨光寺内に安置	室町期
	徳方塔	徳方 *	扁平な方錐形	52	22	砂岩質	周辺を確認したが所在 不明。	室町期
19	藥勝寺北塔	安川・正盛・藥勝寺	扁平な方錐形	48	24	砂岩質	藥勝寺北墓地	室町期
27	日吉神社塔1	安川・宮村 *	扁平な方錐形	46	20	凝灰岩	今回は確認できず。	室町期
27	日吉神社塔2	安川・宮村 *	扁平な方錐形	26	22	砂岩質	今回は確認できず。	室町期

その他の石造遺物

*は撮影できなかったもの

番号	名称	所在地	側体數	備考	時期
21	藥勝寺塔	安川・正盛・藥勝寺 *	塔塔の一部(塔身部)	今回は確認できず。	南北朝期
27	日吉神社塔	安川・宮村 *	一右五輪塔か	今回は確認できず。	室町期

Tab.5 採集遺物一覧 (1)

遺物番号	字名	遺物情報	時期	時期	採集日	実測図	遺物番号	字名	遺物情報	時期	時期	採集日	実測図
001	東保	陶器	近代	×	2/1/2010		076	東保	陶器	近世	●	3/1/2010	
002	東保	陶器	近代	×	2/1/2010		077	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
003	東保	瓦	近代	×	2/1/2010		078	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
004	東保	上部器	中世	▲	2/1/2010		079	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
005	東保	須恵器	古代	■	2/1/2010		080	東保	陶器	不明	×	3/1/2010	
006	東保	須恵器	古代	■	2/1/2010		081	東保	上部器	中世	▲	3/1/2010	
007	東保	須恵器	古代	■	2/1/2010		082	東保	上部器	中世	▲	3/1/2010	
008	東保	須恵器	古代	■	2/1/2010		083	東保	磁器	近世	●	3/1/2010	No.2
009	東保	珠洲	中世	▲	2/1/2010		084	東保	磁器	近世	●	3/1/2010	
010	東保	珠洲	中世	▲	2/1/2010		085	東保	磁器	古代	■	3/1/2010	
011	東保	陶器	近代	×	2/1/2010		086	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
012	東保	珠洲	中世	▲	2/1/2010		087	東保	上部器	中世	▲	3/1/2010	
013	東保	上部器	中世	▲	2/1/2010		088	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
014	東保	陶文土器	韓文	★	2/1/2010		089	東保	磁器	近世	●	3/1/2010	
015	東保	須恵器	古代	■	2/1/2010		090	東保	磁器	近世	●	3/1/2010	
016	東保	磁器	近代	×	2/1/2010		091	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
017	東保	珠洲	中世	▲	2/2/2010		092	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
018	東保	珠洲	中世	▲	2/2/2010		093	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
019	東保	珠洲	中世	▲	2/2/2010		094	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
020	東保	上部器	中世	▲	2/2/2010		095	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
021	東保	陶器	不明	×	2/2/2010		096	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
022	東保	陶器	近世	●	2/2/2010		097	東保	陶器	近世	●	3/1/2010	
023	東保	越中瀬戸	中世	▲	2/2/2010		098	東保	陶文土器	近世	●	3/1/2010	
024	東保	磁器	近世	●	2/2/2010		099	東保	土の器	中世	▲	3/1/2010	
025	東保	陶器	近世	●	2/2/2010		100	東保	珠洲	中世	▲	3/1/2010	
026	東保	磁器	近世	●	2/2/2010		101	東保	土の器	中世	▲	3/1/2010	
027	東保	陶器	近世	●	2/2/2010		102	東保	須恵器	古代	■	3/1/2010	
028	東保	土師器	中世	▲	2/2/2010		103	東保	須恵器	古代	■	3/1/2010	
029	東保	土師器	中世	▲	2/2/2010		104	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
030	東保	珠洲	中世	▲	2/2/2010		105	東保	須恵器	古代	■	3/1/2010	
031	東保	磁器	近世	●	2/2/2010		106	東保	陶器	近世	●	3/1/2010	
032	東保	珠洲	中世	▲	2/2/2010		107	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
033	東保	陶器	不明	×	2/2/2010		108	東保	陶器	近世	●	3/1/2010	
034	東保	土師器	中世	▲	2/2/2010		109	東保	磁器	近世	●	3/1/2010	No.5
035	東保	珠洲	中世	▲	2/2/2010		110	東保	珠洲	中世	▲	3/3/2010	
036	東保	珠洲	中世	▲	2/2/2010		111	東保	珠洲	中世	▲	3/3/2010	
037	東保	土師器	中世	▲	2/2/2010		112	東保	須恵器	古代	■	3/3/2010	
038	東保	磁器	近世	●	2/2/2010		113	東保	磁器	近世	●	3/2/2010	
039	東保	陶器	不明	×	2/2/2010		114	東保	磁器	近世	●	3/2/2010	
040	東保	磁器	近代	×	2/2/2010		115	東保	陶器	不明	×	3/2/2010	
041	東保	須恵器	古代	■	2/2/2010		116	東保	磁器	近代	×	3/2/2010	
042	東保	須恵器	古代	■	2/2/2010		117	東保	磁器	近代	×	3/2/2010	
043	東保	越中瀬戸	近世	●	2/2/2010		118	東保	越中瀬戸	近世	●	3/2/2010	No.10
044	東保	珠洲	中世	▲	2/2/2010		119	東保	磁器	近代	×	3/2/2010	
045	東保	越中瀬戸	近世	●	2/2/2010		120	東保	磁器	近代	×	3/2/2010	
046	東保	陶器	近世	●	2/2/2010		121	東保	珠洲	中世	▲	3/1/2010	
047	東保	陶器	近世	●	2/2/2010		122	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
048	東保	珠洲	中世	▲	2/2/2010		123	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
049	東保	陶器	近代	×	2/2/2010		124	東保	磁器	近代	×	3/1/2010	
050	東保	磁器	近代	×	3/1/2010		125	東保	磁器	近世	●	3/1/2010	
051	東保	磁器	近代	×	3/1/2010		126	東保	土師器	中世	▲	3/1/2010	
052	東保	磁器	近世	●	3/1/2010		127	東保	陶器	不明	×	3/1/2010	
053	東保	磁器	近代	×	3/1/2010		128	東保	磁器	不明	×	3/1/2010	
054	東保	陶器	近世	●	3/1/2010		129	東保	磁器	近世	●	3/1/2010	
055	東保	磁器	近代	×	3/1/2010		130	東保	陶器	不明	×	3/1/2010	
056	東保	磁器	近代	×	3/1/2010		131	東保	陶器	不明	×	3/1/2010	
057	東保	磁器	不明	×	3/1/2010		132	東保	陶器	近世	●	3/1/2010	
058	東保	陶器	近世	●	3/1/2010		133	東保	陶器	近世	●	3/1/2010	
059	東保	磁器	近代	×	3/1/2010		134	東保	陶器	不明	×	3/1/2010	
060	東保	磁器	近代	×	3/1/2010		135	東保	陶器	近世	●	3/1/2010	
061	東保	磁器	近代	×	3/2/2010		136	東保	陶器	近世	●	3/1/2010	
062	東保	磁器	近代	×	3/2/2010		137	東保	陶器	不明	×	3/1/2010	
063	東保	磁器	近代	×	3/2/2010		138	東保	越中瀬戸	近世	●	3/1/2010	
064	東保	磁器	近世	●	3/2/2010		139	東保	土師器	中世	▲	3/1/2010	
065	東保	磁器	近世	●	3/2/2010		140	東保	陶器	不明	×	3/1/2010	
066	東保	磁器	近世	●	3/1/2010		141	東保	珠洲	中世	▲	3/1/2010	
067	東保	磁器	近世	●	3/1/2010		142	東保	陶器	不明	×	3/2/2010	
068	東保	磁器	近世	●	3/1/2010		143	東保	須恵器	近世	●	3/2/2010	
069	東保	磁器	近代	×	3/1/2010		144	東保	珠洲	中世	▲	3/3/2010	No.21
070	東保	真	近代	×	3/1/2010		145	東保	陶器	不明	×	3/3/2010	
071	東保	珠洲	近代	×	3/1/2010		146	東保	珠洲	中世	▲	3/3/2010	No.19
072	東保	磁器	近世	●	3/1/2010		147	東保	須恵器	古代	■	3/3/2010	
073	東保	珠洲	近世	●	3/1/2010		148	東保	珠洲	中世	▲	3/3/2010	
074	東保	磁器	近世	●	3/1/2010		149	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010	
075	東保	磁器	近代	×	3/1/2010		150	東保	越中瀬戸	近世	●	3/2/2010	

No.1

No.2

- 15 -

Tab.6 採集遺物一覧(2)

遺物番号	学名	遺物情報	時期	時期	採集日	実測図	遺物番号	学名	遺物情報	時期	時期	採集日	実測図		
151	東保	漆器	中世	▲	3/2/2010		226	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
152	東保	漆器	中世	▲	3/2/2010		227	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
153	東保	漆器	中世	▲	3/2/2010		228	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
154	東保	陶器	不明	×	3/2/2010		229	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
155	東保	漆器	中世	▲	3/2/2010		230	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
156	東保	陶器	不明	×	3/2/2010		231	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010			
157	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010		232	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
158	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010		233	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
159	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010		234	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
160	東保	越山廻口	近世	●	3/2/2010		235	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
161	東保	磁器	近世	●	3/2/2010		236	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
162	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010		237	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
163	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010		238	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
164	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010		239	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
165	東保	陶器	近世	●	3/2/2010		240	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
166	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010		241	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
167	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010		242	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
168	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010	No.24	243	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
169	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010		244	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
170	東保	陶器	不明	×	3/2/2010		245	東保	陶器	近代	×	3/2/2010			
171	東保	磁器	近代	×	3/2/2010		246	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
172	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010		247	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
173	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010		248	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010	No.28・29		
174	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010	No.9	249	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010			
175	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010		250	東保	磁器	不明	×	3/2/2010			
176	東保	磁器	近代	×	3/2/2010		251	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
177	東保	磁器	近世	●	3/2/2010		252	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
178	東保	磁器	近代	×	3/2/2010		253	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010			
179	東保	磁器	近世	●	3/2/2010		254	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
180	東保	磁器	近世	●	3/2/2010		255	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
181	東保	磁器	近代	×	3/2/2010		256	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
182	東保	石	不明	×	3/2/2010		257	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
183	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010		258	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
184	東保	須恵器	近世	●	3/2/2010		259	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
185	東保	陶器	近世	●	3/2/2010		260	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
186	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010		261	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
187	東保	磁器	近世	●	3/2/2010		262	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
188	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		263	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
189	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		264	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
190	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		265	東保	陶器	近世	●	3/2/2010	No.26		
191	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		266	東保	陶器	近世	●	3/2/2010			
192	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		267	東保	陶器	不明	×	3/2/2010			
193	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		268	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
194	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		269	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
195	東保	陶器	近世	●	3/2/2010		270	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010			
196	東保	須恵器	近世	●	3/2/2010		271	東保	趙山廻口	近世	●	3/2/2010			
197	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		272	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010	No.4		
198	東保	須文十唇	縞文	●	3/2/2010		273	東保	趙山廻口	近世	●	3/2/2010			
199	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		274	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
200	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		275	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
201	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		276	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
202	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		277	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
203	東保	須文十唇	縞文	●	3/2/2010		278	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
204	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		279	東保	磁器	近代	×	3/2/2010			
205	東保	十唇器	中世	▲	3/2/2010		280	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
206	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		281	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
207	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		282	東保	磁器	近世	●	3/2/2010			
208	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		283	東保	須恵器	古代	■	3/2/2010			
209	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		284	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010			
210	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		285	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010			
211	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		286	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010			
212	東保	須文十唇	縞文	●	3/2/2010	No.15	287	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010			
213	東保	十唇器	中世	▲	3/2/2010		288	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010			
214	東保	陶器	不明	×	3/2/2010		289	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010			
215	東保	十唇器	中世	▲	3/2/2010		290	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010			
216	東保	須文十唇	縞文	★	3/2/2010		291	東保	土師器	中世	▲	3/2/2010			
217	東保	磁器	近代	×	3/2/2010		292	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010			
218	東保	陶器	近世	●	3/2/2010		293	東保	珠洲	中世	▲	3/2/2010			
219	東保	磁器	近代	×	3/2/2010		294	東保	十唇器	不明	×	3/2/2010			
220	東保	須文十唇	縞文	●	3/2/2010		295	東保	八十歩	磁器	近代	×	3/2/2010		
221	東保	須文十唇	縞文	古代	■	3/2/2010		296	東保	八十歩	磁器	近世	●	3/2/2010	
222	東保	須文十唇	縞文	●	3/2/2010		297	東保	八十歩	磁器	近世	●	3/2/2010		
223	東保	須文十唇	縞文	×	3/2/2010		298	東保	八十歩	磁器	近世	×	3/2/2010		
224	東保	須文十唇	縞文	●	3/2/2010		299	東保	八十歩	磁器	近代	■	3/2/2010		
225	東保	須文十唇	縞文	●	3/2/2010		300	東保	八十歩	須恵器	古代	■	3/2/2010		

Tab.7 採集遺物一覧 (3)

遺物番号	字名	遺物情報	時期	時期	採集日	実測例	遺物番号	字名	遺物情報	時期	時期	採集日	実測例
301	八十步	磁器	近世	●	3/2/2010		376	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
302	八十步	磁器	近世	●	3/2/2010		377	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
303	八十步	磁器	近世	×	3/2/2010		378	宮森	珠掛	中世	▲	3/3/2010	
304	八十步	磁器	近世	●	3/2/2010		379	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
305	八十步	磁器	近世	×	3/2/2010		380	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	No.11
306	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010		381	宮森	磁器	近世	×	3/3/2010	
307	宮森	陶器	不明	×	3/3/2010		382	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
308	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010		383	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
309	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010		384	宮森	珠掛	中世	▲	3/3/2010	
310	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010		385	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
311	宮森	越中瀬戸	近世	●	3/3/2010	No.3	386	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
312	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010		387	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
313	東保	陶器	不明	×	3/3/2010		388	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
314	東保	上鉢器	中世	▲	3/3/2010		389	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
315	東保	上鉢器	中世	▲	3/3/2010		390	宮森	珠掛	中世	▲	3/3/2010	
316	東保	珠洲	中世	▲	3/3/2010		391	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
317	東保	珠洲	中世	▲	3/3/2010		392	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
318	東保	磁器	近世	×	3/3/2010		393	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
319	東保	磁器	近世	●	3/3/2010		394	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
320	東保	磁器	近世	●	3/3/2010		395	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
321	東保	陶器	近世	●	3/3/2010		396	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
322	東保	磁器	近世	●	3/3/2010		397	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
323	東保	磁器	近世	●	3/3/2010		398	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
324	東保	磁器	近世	●	3/3/2010		399	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
325	東保	越中瀬戸	近世	●	3/3/2010		400	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010	
326	東保	珠洲	中世	▲	3/3/2010		401	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010	
327	東保	磁器	近世	●	3/3/2010		402	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
328	東保	陶器	不明	×	3/3/2010		403	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
329	東保	磁石	不明	×	3/3/2010		404	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
330	東保	越中瀬戸	近世	●	3/3/2010		405	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
331	東保	須恵器	古代	■	3/3/2010		406	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
332	東保	磁器	不明	×	3/3/2010		408	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
333	東保	土師器	中世	▲	3/3/2010		409	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
334	東保	磁器	近世	●	3/3/2010		410	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
335	東保	陶器	近世	●	3/3/2010		411	宮森	磁器	近世	●	3/3/2010	
336	東保	土師器	不明	×	3/3/2010		412	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
337	東保	陶器	近世	●	3/3/2010		413	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
338	東保	珠洲	中世	▲	3/3/2010		414	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
339	東保	磁器	近世	●	3/3/2010		415	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
340	東保	須恵器	古代	■	3/3/2010		416	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
341	東保	磁器	近世	●	3/3/2010		417	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
342	東保	珠洲	中世	▲	3/3/2010		418	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
343	東保	磁器	近世	●	3/3/2010		419	宮森	越中瀬戸	近世	●	3/3/2010	
344	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010		420	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
345	宮森	陶器	不明	×	3/3/2010		421	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
346	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010		422	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010	
347	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010		423	宮森	磁器	近世	●	3/4/2010	
348	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010		424	宮森	陶器	近世	●	3/4/2010	
349	宮森	須恵器	古代	■	3/3/2010		425	宮森	越中瀬戸	近世	●	3/3/2010	No.17
350	宮森	陶器	近世	●	3/3/2010		426	宮森	越中瀬戸	近世	●	3/3/2010	
351	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010		427	楳正寺	磁器	近代	×	3/3/2010	
352	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010		428	楳正寺	磁器	近代	×	3/3/2010	
353	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010		429	楳正寺	磁器	近世	●	3/3/2010	
354	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010		430	楳正寺	磁器	近世	●	3/3/2010	
355	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010		431	楳正寺	陶器	不明	×	3/3/2010	
356	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010		432	楳正寺	陶器	不明	×	3/3/2010	
357	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010		433	楳正寺	磁器	近代	×	3/3/2010	
358	宮森	磁器	近世	●	3/3/2010		434	八十歩	磁器	近代	×	3/3/2010	
359	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010		435	八十歩	磁器	近代	×	3/3/2010	
360	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010		436	八十歩	磁器	不明	×	3/3/2010	
361	宮森	陶器	不明	×	3/3/2010		437	宮森	越中瀬戸	近世	●	3/3/2010	No.7
362	宮森	陶器	近代	×	3/3/2010		438	宮森	上鉢器	中世	▲	3/3/2010	
363	宮森	陶器	近世	●	3/3/2010		439	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010	
364	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010		440	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010	
365	宮森	陶器	近代	×	3/3/2010		441	宮森	上鉢器	中世	▲	3/4/2010	
366	宮森	陶器	近代	×	3/3/2010		442	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010	
367	宮森	陶器	近代	×	3/3/2010		443	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010	
368	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010		444	宮森	上鉢器	中世	▲	3/4/2010	
369	宮森	陶器	不明	×	3/3/2010		445	宮森	上鉢器	中世	▲	3/4/2010	
370	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010		446	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010	
371	宮森	磁器	近代	×	3/3/2010		447	宮森	上鉢器	中世	▲	3/4/2010	
372	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010		448	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010	
373	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010		449	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010	
374	宮森	上鉢器	中世	▲	3/3/2010		450	宮森	上鉢器	中世	▲	3/4/2010	
375	宮森	珠洲	中世	▲	3/3/2010								

Tab.8 採集遺物一覧 (4)

遺物番号	字名	遺物情報	時期	時期	採集日	実測図	遺物番号	字名	遺物情報	時期	時期	採集日	実測図
451	宮森	上師器	中世	▲	3/4/2010		526	賴成	越中瀬戸	近世	●	3/5/2010	
452	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		527	賴成	十郎助	中世	▲	3/5/2010	
453	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		528	賴成	十郎助	中世	▲	3/5/2010	
454	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		529	徳万	十郎助	中世	▲	3/5/2010	
455	宮森	磁器	近世	●	3/4/2010		530	徳万	須恵器	古代	■	3/5/2010	
456	宮森	陶器	不明	×	3/4/2010		531	徳万	須恵器	古代	■	3/4/2010	
457	宮森	須恵器	古代	■	3/4/2010		532	徳万	須恵器	古代	■	3/4/2010	
458	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		533	徳万	須恵器	古代	■	3/4/2010	
459	宮森	須恵器	古代	■	3/4/2010		534	徳万	越中瀬戸	近世	●	3/4/2010	
460	宮森	須恵器	古代	■	3/4/2010		535	徳万	磁器	近世	●	3/4/2010	
461	宮森	土師器	中世	▲	3/4/2010		536	徳万	磁器	近世	●	3/4/2010	
462	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		537	徳万	須恵器	古代	■	3/4/2010	
463	宮森	陶器	不明	×	3/4/2010		538	徳万	磁器	近代	×	3/4/2010	
464	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		539	徳万	上師器	中世	▲	3/4/2010	
465	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		540	徳万	上師器	中世	▲	3/4/2010	
466	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		541	徳万	上師器	中世	▲	3/4/2010	
467	宮森	越中瀬戸	近世	●	3/4/2010		542	徳万	上師器	中世	▲	3/4/2010	
468	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		543	徳万	上師器	中世	▲	3/4/2010	
469	宮森	土師器	中世	▲	3/4/2010		544	徳万	越中瀬戸	近世	●	3/4/2010	
470	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		545	徳万	上師器	中世	▲	3/4/2010	
471	宮森	陶器	不明	×	3/4/2010		546	徳万	上師器	中世	▲	3/4/2010	
472	宮森	陶器	不明	×	3/4/2010		547	徳万	上師器	中世	▲	3/4/2010	
473	宮森	越中瀬戸	近世	●	3/4/2010		548	徳万	上師器	中世	▲	3/4/2010	
474	宮森	陶器	不明	×	3/4/2010		549	徳万	上師器	中世	▲	3/4/2010	
475	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		550	徳万	上師器	中世	▲	3/4/2010	
476	宮森	土師器	中世	▲	3/4/2010		551	徳万	磁器	近代	×	3/4/2010	
477	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010	No.22	552	徳万	瓦	近代	×	3/4/2010	
478	徳成	磁器	近世	●	3/3/2010		553	徳成	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
479	徳成	珠洲	中世	▲	3/4/2010		554	徳成	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
480	徳成	土師器	中世	▲	3/4/2010		555	徳成	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
481	徳成	陶器	不明	×	3/4/2010		556	徳成	須恵器	古代	■	3/5/2010	
482	徳成	珠洲	中世	▲	3/5/2010		557	徳成	須恵器	古代	■	3/5/2010	
483	徳方	珠洲	中世	▲	3/5/2010		558	徳方	土師器	中世	▲	3/5/2010	
484	徳方	珠洲	中世	▲	3/5/2010	No.25	559	徳方	土師器	中世	▲	3/5/2010	
485	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		560	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010	
486	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010	No.18	561	徳成	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
487	宮森	須恵器	近世	●	3/4/2010		562	徳成	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
488	宮森	磁器	近代	×	3/4/2010		563	徳成	陶器	不明	×	3/5/2010	
489	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		564	徳成	須恵器	古代	■	3/5/2010	
490	宮森	越中瀬戸	近世	●	3/4/2010		565	徳成	陶器	不明	×	3/5/2010	
491	宮森	珠洲	中世	▲	3/4/2010		566	徳成	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
492	宮森	土師器	中世	▲	3/4/2010		567	徳成	越中瀬戸	近世	●	3/5/2010	
493	宮森	土師器	中世	▲	3/4/2010		568	徳成	土師器	中世	▲	3/5/2010	
494	宮森	土師器	中世	▲	3/4/2010		569	徳成	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
495	徳方	磁器	近世	●	3/4/2010		570	徳成	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
496	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		571	徳成	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
497	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		572	徳成	須恵器	古代	■	3/5/2010	
498	徳方	陶器	不明	×	3/4/2010		573	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010	
499	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		574	徳方	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
500	徳方	磁器	近世	●	3/4/2010		575	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010	
501	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		576	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010	
502	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		577	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010	
503	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		578	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010	No.16
504	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		579	徳方	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
505	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		580	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010	
506	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		581	徳方	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
507	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		582	徳方	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
508	宮森	磁器	近代	×	3/9/2010		583	徳方	珠洲	中世	▲	3/5/2010	
509	徳成	磁器	近代	×	3/3/2010		584	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010	
510	徳成	陶器	近世	●	3/4/2010		585	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010	
511	徳成	須恵器	山代	■	3/4/2010		586	徳方	土師器	中世	▲	3/4/2010	
512	徳成	須恵器	古代	■	3/5/2010		587	三合新	磁器	近世	●	3/5/2010	
513	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010		588	三合新	褐文土器	彌文	★	3/5/2010	
514	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010		589	三合新	須恵器	古代	■	3/5/2010	
515	徳方	土師器	中世	▲	3/5/2010		590	三合新	土師器	中世	▲	3/5/2010	
516	徳方	珠洲	中世	▲	3/5/2010		591	三合新	褐文土器	彌文	★	3/9/2010	
517	徳方	珠洲	中世	▲	3/5/2010		592	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010	
518	徳方	珠洲	中世	▲	3/5/2010		593	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010	
519	徳方	陶器	不明	×	3/5/2010		594	徳方	磁器	小明	×	3/4/2010	
520	徳方	土師器	中世	▲	3/5/2010		595	徳方	磁器	近世	●	3/4/2010	
521	徳成	越中瀬戸	近世	●	3/5/2010		596	徳方	珠洲	中世	▲	3/4/2010	
522	徳成	土師器	近世	●	3/5/2010		597	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010	
523	徳成	土師器	中世	▲	3/5/2010		598	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010	
524	徳成	土師器	中世	▲	3/5/2010		599	徳方	瓦	近代	×	3/4/2010	
525	徳成	須恵器	古代	■	3/5/2010	No.27	600	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010	

Tab.9 採集遺物一覽(5)

遺物番号	字名	遺物情報	時期	時期	採集日	実測図	遺物番号	字名	遺物情報	時期	時期	採集日	実測図
601	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		676	徳方	磁器	近代	×	3/6/2010	
602	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		677	徳方	珠洲	中世	▲	3/6/2010	
603	徳方	陶器	不明	×	3/4/2010		678	安川	磁器	近代	×	3/6/2010	
604	徳方	冠着	近代	×	3/4/2010		679	安川	磁器	近世	●	3/6/2010	
605	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		680	安川	陶器	近世	●	3/6/2010	
606	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		681	安川	磁器	中世	▲	3/6/2010	
607	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		682	安川	磁器	近世	●	3/6/2010	
608	徳方	磁器	不明	×	3/4/2010		683	安川	磁器	近代	×	3/6/2010	
609	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		684	安川	磁器	近世	●	3/6/2010	
610	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		685	三合	磁器	近代	×	3/6/2010	
611	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010		686	安川	磁器	近代	×	3/6/2010	
612	徳方	磁器	近代	×	3/9/2010		687	安川	磁器	近代	×	3/6/2010	
613	徳方	磁器	近代	×	3/9/2010		688	徳方	珠洲	中世	▲	3/4/2010	
614	徳方	磁器	近代	×	3/9/2010		689	徳方	珠洲	中世	▲	3/4/2010	
615	二合斎	磁器	近世	●	3/9/2010		690	徳方	陶器	不明	■	3/4/2010	No.14
616	二合斎	土師器	中世	▲	3/9/2010		691	徳方	須恵器	古代	■	3/4/2010	
617	三合斎	陶器	近世	●	3/8/2010		692	徳方	土師器	中世	▲	3/4/2010	
618	二合斎	陶器	近世	●	3/8/2010		693	徳方	土師器	中世	▲	3/4/2010	
619	三合斎	磁器	近代	×	3/8/2010		694	徳方	土師器	中世	▲	3/4/2010	
620	朝成	陶器	不明	×	3/4/2010		695	徳方	土師器	中世	▲	3/4/2010	
621	朝成	土師器	中世	▲	3/6/2010		696	徳方	土師器	中世	▲	3/4/2010	
622	朝成	土師器	中世	▲	3/6/2010		697	徳方	土師器	中世	▲	3/4/2010	
623	朝成	土師器	中世	▲	3/6/2010		698	徳方	須恵器	古代	■	3/4/2010	
624	朝成	土師器	中世	▲	3/6/2010		699	徳方	磁器	近代	×	3/4/2010	
625	朝成	珠洲	中世	▲	3/6/2010	No.13	700	徳方	磁器	近代	×	3/9/2010	
626	朝成	土師器	中世	▲	3/6/2010		701	三合	磁器	近代	×	3/9/2010	
627	安川	磁器	近世	●	3/5/2010		702	一合	陶器	不明	×	3/9/2010	
628	安川	珠洲	中世	▲	3/5/2010		703	一合	陶器	近代	×	3/9/2010	
629	朝成	珠洲	中世	▲	3/5/2010		704	一合	磁器	近世	●	3/9/2010	
630	朝成	珠洲	中世	▲	3/6/2010		705	徳方	磁器	近世	●	3/9/2010	
631	安川	珠洲	中世	▲	3/6/2010		706	徳方	磁器	近代	●	3/9/2010	
632	安川	磁器	近世	●	3/4/2010		707	徳方	磁器	近代	×	3/9/2010	
633	安川	磁器	近代	×	3/5/2010		708	三合斎	陶器	近世	●	3/9/2010	
634	安川	磁器	近代	×	3/5/2010		709	三合斎	磁器	近世	●	3/9/2010	
635	安川	磁器	近代	×	3/5/2010		710	三合斎	磁器	近世	●	3/9/2010	
636	安川	磁器	近代	×	3/5/2010		711	三合斎	磁器	近代	×	3/6/2010	
637	安川	土師器	中世	▲	3/6/2010		712	福山	施器	近世	●	3/8/2010	
638	安川	土師器	中世	▲	3/6/2010		713	福山	施器	近世	●	3/8/2010	
639	安川	須恵器	古代	■	3/5/2010		714	福山	施器	近世	●	3/8/2010	
640	安川	珠洲	中世	▲	3/5/2010		715	福山	瓦	近代	×	3/6/2010	
641	安川	磁器	近代	×	2/6/2010		716	福山	陶器	近代	×	3/6/2010	
642	安川	磁器	近世	●	3/6/2010		717	福山	陶器	近代	×	3/6/2010	
643	安川	磁器	近代	×	3/6/2010		718	福山	陶器	近代	×	3/6/2010	
644	安川	磁器	近代	×	3/6/2010		719	福山	陶器	近代	×	3/8/2010	
645	安川	磁器	近世	●	3/6/2010		720	福山	陶器	近代	×	3/8/2010	
646	安川	磁器	近世	●	3/6/2010		721	福山	瓦	近代	×	3/8/2010	
647	徳方	珠洲	中世	▲	3/5/2010		722	福山	瓦	近代	×	3/8/2010	
648	徳方	縞文土器	縞文	★	3/5/2010		723	福山	瓦	近代	×	3/8/2010	
649	徳方	須恵器	古代	■	3/5/2010		724	三合斎	土師器	中世	▲	3/8/2010	
650	徳方	土師器	中世	▲	3/5/2010		725	三合斎	磁器	近代	×	3/8/2010	
651	徳方	須恵器	中世	▲	3/6/2010		726	三合斎	磁器	近世	●	3/8/2010	
652	徳方	須恵器	中世	▲	3/6/2010		727	三合斎	磁器	近代	×	3/8/2010	
653	徳方	須恵器	古代	■	3/6/2010		728	三合斎	磁器	近代	×	3/8/2010	
654	徳方	須恵器	古代	■	3/6/2010		729	三合斎	陶器	近代	×	3/8/2010	
655	徳方	須恵器	古代	■	3/6/2010	No.23	730	三合斎	土師器	中世	▲	3/8/2010	
656	徳方	土師器	中世	▲	3/6/2010		731	三合斎	土師器	中世	▲	3/8/2010	
657	徳方	須恵器	古代	■	3/6/2010		732	三合斎	須恵器	古代	■	3/8/2010	
658	徳方	珠洲	中世	▲	3/6/2010		733	三合斎	土師器	中世	▲	3/8/2010	
659	徳方	珠洲	中世	▲	3/6/2010		734	三合斎	土師器	中世	▲	3/8/2010	
660	徳方	須恵器	中世	▲	3/6/2010		735	三合斎	土師器	中世	▲	3/8/2010	
661	徳方	土師器	古代	■	3/6/2010		736	三合斎	須恵器	古代	■	3/8/2010	
662	徳方	縞文土器	縞文	★	3/6/2010		737	三合斎	須恵器	古代	■	3/8/2010	
663	徳方	須恵器	古代	■	3/6/2010		738	福山	土師器	中世	▲	3/8/2010	
664	徳方	須恵器	古代	■	3/6/2010		739	福山	陶器	不明	×	3/8/2010	
665	徳方	磁器	近代	×	3/6/2010		740	安川	磁器	近代	×	3/9/2010	
666	徳方	磁器	近代	×	3/6/2010		741	安川	磁器	近世	●	3/9/2010	
667	徳方	磁器	近代	×	3/6/2010		742	安川	磁器	近世	●	3/9/2010	
668	徳方	磁器	近世	●	3/6/2010		743	安川	磁器	近代	×	3/5/2010	
669	徳方	磁器	近代	×	3/6/2010		744	安川	土師器	中世	▲	3/5/2010	
670	徳方	磁器	近代	×	3/6/2010		745	安川	磁器	近代	×	3/5/2010	
671	徳方	磁器	近代	×	3/6/2010		746	安川	須恵器	古代	■	3/9/2010	
672	徳方	越中窯	近世	●	3/6/2010		747	安川	土師器	中世	▲	3/9/2010	
673	徳方	土師器	中世	▲	3/6/2010		748	安川	施器	近代	×	3/5/2010	
674	徳方	磁器	近代	×	3/6/2010		749	安川	施器	近代	×	3/5/2010	
675	徳方	磁器	近世	●	3/6/2010		750	安川	施器	近世	●	3/9/2010	

Tab.10 採集遺物一覧 (6)

遺物番号	字名	遺物情報	時期	時期	採集日	史割回
751	安川	磁器	近世	●	3/9/2010	
752	安川	須恵器	古代	■	3/9/2010	
753	安川	磁器	近代	×	3/9/2010	
754	安川	磁器	近世	×	3/9/2010	
755	安川	磁器	近世	●	3/9/2010	
756	安川	陶器	不明	×	3/9/2010	
757	安川	越中製灰	近世	●	3/9/2010	
758	安川	須恵器	古代	■	3/9/2010	
759	安川	珠陶	中世	▲	3/9/2010	
760	安川	土師器	中世	▲	3/9/2010	
761	安川	陶器	不明	×	3/9/2010	
762	安川	珠陶	中世	▲	3/9/2010	
763	安川	須恵器	古代	■	3/9/2010	
764	安川	土師器	中世	▲	3/9/2010	
765	安川	土師器	中世	▲	3/9/2010	
766	安川	磁器	不明	×	3/9/2010	
767	安川	陶器	近世	●	3/9/2010	
768	安川	磁器	近代	×	3/9/2010	
769	安川	須恵器	古代	■	3/9/2010	
770	安川	陶器	不明	×	3/9/2010	
771	安川	須恵器	古代	■	3/9/2010	
772	安川	須恵器	古代	■	3/9/2010	
773	安川	須恵器	古代	■	3/9/2010	
774	安川	土師器	中世	▲	3/9/2010	
775	安川	土師器	中世	▲	3/9/2010	
776	安川	土師器	中世	▲	3/9/2010	
777	安川	土師器	中世	▲	3/9/2010	
778	安川	珠陶	中世	▲	3/9/2010	
779	安川	磁器	近代	×	3/9/2010	
780	安川	磁器	近代	×	3/9/2010	
781	安川	須恵器	古代	■	3/9/2010	
782	安川	空器片?	小明	×	3/6/2010	
783	福山	陶器	不明	×	3/8/2010	
784	福山	陶器	不明	×	3/8/2010	
785	福山	十輪器	中世	▲	3/8/2010	
786	福山	十輪器	中世	▲	3/8/2010	
787	福山	陶器	不明	×	3/8/2010	
788	福山	陶器	近世	●	3/8/2010	
789	福山	須恵器	古代	■	3/8/2010	
790	福山	陶器	不明	×	3/8/2010	
791	福山	土師器	中世	▲	3/8/2010	
792	福山	磁器	近世	●	3/8/2010	
793	福山	須恵器	古代	■	3/8/2010	
794	福山	須恵器	古代	■	3/8/2010	
795	福山	瓦	近代	×	3/8/2010	
796	福山	磁器	近代	×	3/8/2010	
797	福山	磁器	近代	×	3/8/2010	
798	福山	土師器	中世	▲	3/8/2010	
799	福山	須恵器	古代	■	3/8/2010	
800	福山	土師器	中世	▲	3/8/2010	
801	福山	須恵器	古代	■	3/8/2010	
802	福山	須恵器	古代	■	3/8/2010	
803	福山	號七?	不明	×	3/8/2010	
804	福山	陶器	不明	×	3/8/2010	
805	福山	陶器	不明	×	3/8/2010	
806	福山	須恵器	古代	■	3/8/2010	
807	福山	瓦	近代	×	3/8/2010	
808	福山	瓦	近代	×	3/8/2010	
809	福山	須恵器	古代	■	3/8/2010	
810	福山	須恵器	古代	■	3/8/2010	
811	福山	瓦	近世	●	3/8/2010	

3 遺跡各説

今回の分布調査によって、新規発見・内容変更・範囲変更のあった遺跡について取り上げる。

遺跡名	東保北遺跡〔新規〕	遺跡番号	—	地図	NJ536133
所在地	砺波市東保字田中	現	況	水田・宅地	
種別	繩文散布地、古代散布地、中世散布地	時	代	繩文、古代、中世	
包蔵地	地形的には庄川扇状地の東縁に位置し、東般若地区一帯がのるマッド上にある。付近には浅				
認定	草観音發祥地という石塔があり、直接関係はないと思われるが中世遺物が周辺で採集された。 また、北側には古代遺物が集中的に散布することから、繩文遺物採集地点を含めて包蔵地に認定した。				

遺跡名	東保田中遺跡〔新規〕	遺跡番号	—	地図	NJ536133
所在地	砺波市東保字田中	現	況	水田・宅地	
種別	古代散布地、中世散布地	時	代	古代、中世	
包蔵地	地形的には庄川扇状地の東縁に位置し、東般若地区一帯がのるマッド上にある。高岡市との				
認定	行政境付近で古代・中世・近世の遺物を集中的に採集した。マッドの中心部にあたり、遺物 が濃密に分布することから集落遺跡が存在するのであろう。南北に長いマッド上にあり、旧 河道などの痕跡もないため、遺物の分布範囲に合わせて包蔵地に認定した。				

遺跡名	東保大坪遺跡〔新規〕	遺跡番号	—	地図	NJ536133
所在地	砺波市東保字大坪	現	況	水田・宅地	
種別	繩文散布地、古代散布地、中世散布地	時	代	繩文、古代、中世	
包蔵地	地形的には庄川扇状地の東縁に位置し、東般若地区一帯がのるマッド上にある。東保田中遺				
認定	跡から連続するように遺物が採集された。南北に長いマッド上にあり、旧河道などの痕跡も ないため、遺物の分布範囲に合わせて包蔵地に認定した。				

遺跡名	東保石坂南遺跡〔範囲変更〕	遺跡番号	—	地図	NJ536133
所在地	砺波市東保字石坂	現	況	水田・宅地	
種別	古代散布地	時	代	古代	
包蔵地	東保石坂遺跡の包蔵地内で古代遺物が集中的に採集された。採集遺物の集中範囲と包蔵地が				
認定	ほぼ同じだが南側で古代及び中世の遺物を採集したことから、南側に範囲拡大した。				
調査歴	なし				
文献	なし				

遺跡名 東保高池遺跡〔名称・範囲・内容変更〕 遺跡番号 208043 地図 NJ536133

所在地 研波市東保字高池 現況 水田・宅地

種別 古代散布地、中世散布地 時代 古代、中世

包藏地 昭和47年に本発掘調査が行なわれた東保高池遺跡について、平成15年の試掘調査結果に基づき「東保遺跡」と名称変更及び範囲拡大を行なった。しかし、今回の分布調査により東保地内での遺跡数増加が見込まれることや学史的に著名な東保高池遺跡の復活を望む声があつたことを考慮し、名称を復活することにする。また、包藏地の範囲については、遺物採集地点を中心に設定することとし、西側及び北側を若干縮小した。

調査歴 本調査(S47)

文献 研波市教育委員会 1973『研波市東保高池遺跡発掘調査概報』

遺跡名 宮森道川島遺跡〔新規〕 遺跡番号 - 地図 NJ536133

所在地 研波市宮森 現況 水田・宅地

種別 古代散布地、中世散布地 時代 古代、中世

包藏地 宮森の南桂寺の北側一帯で古代及び中世の遺物を採集した。東にある宮森庵寺周辺の遺物と認定は隔たりがあると思われるが、中世石造物を含めて包藏地に認定した。

遺跡名 宮森庵寺〔範囲・内容変更〕 遺跡番号 208042 地図 NJ536133

所在地 研波市宮森 現況 水田・宅地

種別 古代散布地、中世寺院 時代 古代、鎌倉、室町

包藏地 かつて密教法具が発見された地点を中心に包藏地の範囲が設定されているが、今回の踏査により遺物の分布が南側に広がることが判明したので、包藏地の範囲を拡大した。また、新たに古代遺物が集中的に採集したが、これは宮森窯跡の灰原が圃場整備により搅乱されたものと考えられる。種別に古代散布地、時代に古代を追加した。

調査歴 なし

文献 なし

遺跡名 宮森西島遺跡〔新規〕 遺跡番号 - 地図 NJ536133

所在地 研波市宮森 現況 水田・宅地

種別 古代散布地、中世散布地 時代 古代、中世

包藏地 地形的には庄川扇状地の東縁に位置し、東般若地区一帯がのるマップ上にある。今回の調査認定 区でもっとも高密度で遺物を採集した地点である。南北に長いマップ上にあり、旧河道などの痕跡もないため、中世石造物と遺物の分布範囲に合わせて包藏地に認定した。

遺跡名	宮森遺跡 みやもり	〔範囲変更〕	遺跡番号	208105	地図	NJ536133
-----	--------------	--------	------	--------	----	----------

所在地 研波市宮森 現況 水田・宅地
 種別 繩文散布地、中世散布地 時代 繩文、中世
 包藏地 東般若地区がのるマッドの縁辺に位置する。繩文の散布地としてこれまで包藏地認定されて
 認定 いたが、今回の踏査では中世遺物しか採集されなかった。よって、中世遺物の分布範囲を中心
 に包藏地として認定した。

調査歴 なし

文献 なし

遺跡名	徳万頼成遺跡 とくまんれいせい	〔範囲変更〕	遺跡番号	208123	地図	NJ536133
-----	--------------------	--------	------	--------	----	----------

所在地 研波市頼成・徳万 現況 水田・宅地
 種別 繩文散布地、古墳散布地、古代散
布地、中世集落、近世散布地 時代 繩文、古墳、古代、中世、近世
 包藏地 主要地方道新湊・庄川線（県道）以東は低位段丘にあたり、県道は河岸段丘の段丘崖に沿つ
 認定 て造成されたと思われる。この低位段丘に遺物が集中していることから、段丘西側一帯を包
 藏地から除外し、範囲を縮小した。

調査歴 本調査(H19~21)

文献 研波市教育委員会 2009『徳万頼成遺跡発掘調査報告』

遺跡名	三合宗九郎島遺跡 みあいそうくろうじま	〔新規〕	遺跡番号	一	地図	NJ536133
-----	------------------------	------	------	---	----	----------

所在地 研波市三合 現況 水田・宅地
 種別 古代散布地、中世散布地 時代 古代、中世
 包藏地 周辺は圃場整備が完了しているが、古代・中世の遺物が集中的に分布する範囲があったので、
 認定 この範囲を包藏地とした。

遺跡名	徳万遺跡 とくまん	〔範囲変更〕	遺跡番号	208052	地図	NJ536133
-----	--------------	--------	------	--------	----	----------

所在地 研波市徳万 現況 水田・宅地
 種別 繩文散布地、古墳散布地、古代散布地、
中世散布地 時代 繩文、古墳、古代、中世
 包藏地 地形的にはマッド上ではなく、砂礫層上にあるが芹谷野段丘を開析する谷部にあたる。今回
 認定 の踏査により中世遺物が濃密に分布することが確認され、新たに古代遺物を探査した。よって、
 遺物の分布範囲に合わせて包藏地を拡大し、種別・時代に古代を追加した。

調査歴 なし

文献 なし

遺跡名	安川二目遺跡 やすかわふため	[範囲変更]	遺跡番号	208068	地図	NJ536133
所在地	砺波市安川	現況	水田・宅地			
種別	中世散布地	時代	中世			
包蔵地	今回の踏査では遺物を採集できなかったが、かつて砺波市社会福祉センターの建設時に須恵器が出土したことから敷地内まで範囲を拡大した。					
調査歴	なし					
文献	なし					
遺跡名	安川宮村遺跡 やすかわみやむら	[新規]	遺跡番号	一	地図	NJ536133
所在地	砺波市安川	現況	水田・宅地			
種別	古代散布地、中世散布地	時代	古代、中世			
包蔵地	地形的には庄川扇状地の東縁に位置し、般若地区一帯がのるマッドの西縁にある。マッドの縁辺に沿って南北に遺物が散布する範囲を包蔵地として認定した。					
遺跡名	福山遺跡 ふくやま	[新規]	遺跡番号	一	地図	NJ536133
所在地	砺波市福山	現況	水田・宅地			
種別	古代散布地、中世散布地	時代	古代、中世			
包蔵地	福山窯の前面にある水田から古代・中世の遺物を探集した。中世期にあたる福山No.2遺跡と連続する可能性もあるが、当該箇所のみ遺物が濃密に分布することからその範囲を包蔵地に認定した。					
遺跡名	安川正守遺跡 やすかわまさもり	[新規]	遺跡番号	一	地図	NJ536133
所在地	砺波市安川	現況	水田・宅地			
種別	古代散布地、中世散布地	時代	古代、中世			
包蔵地	地形的には庄川扇状地の東縁に位置し、般若地区一帯がのるマッド上の縁辺にある。古代・中世の遺物を探集したため、包蔵地として認定した。					
遺跡名	安川野武士遺跡 やすかわやしき	[新規]	遺跡番号	一	地図	NJ536133
所在地	砺波市安川	現況	水田・宅地			
種別	古代散布地、中世散布地	時代	古代、中世			
包蔵地	地形的には庄川扇状地の東縁に位置し、般若地区一帯がのるマッド上にある。南東側にかつて弥生土器が発見された安川野武士A遺跡があるが、地形的に隔たりがあることから別の包蔵地として認定した。					

第3章 まとめ

調査所見 今年度調査区は、古代における東大寺領莊園の比定地であり、中世では徳大寺家領般若野荘の中心的な地域であるため、調査前から例年以上の遺物探集が見込まれたが当初の予想をはるかに上回る量の遺物を採集でき、なつかつこれまで意識しなかった場所に遺物が濃密に分布する状況を把握することができた。冬期間の踏査で3月の上旬まで雪が残り、厳しい条件の中の踏査だったが、収穫は大きい。繩文期は東保石坂遺跡で多くみられたが、古代では調査区全体にわたり分布していた。大きく分布範囲を分けると、東般若地区の一群、般若地区の徳万・頼成付近の一群、安川の一群の3グループに分けられる。これは、金田章裕氏の東大寺領莊園比定地、石粟村、伊加留伎（伊加留岐村）、井山村の並びを彷彿とさせるが、その関係性については将来の水発掘調査を待って議論したい。また、古代では宮森道川島遺跡、三合宗九郎島遺跡、福山遺跡が新規発見されたが、それぞれ窓跡に近い場所に位置している。

中世においては、古代遺物以上に調査区全体に遺物の分布がみられる。東般若地区と般若地区のそれぞれにおいて中世遺跡が群在し、権正寺あたりが空閑地となる。この有り様は、般若野荘において14世紀後半頃に土地を折半して領家方と地頭方にそれぞれ領有権を認める下地中分がなされ、莊園北部が地頭方、南部が徳大寺家の領家方とされる河合久則氏らの見解に合致するように見える。しかし、北部の東保高池遺跡では下地中分前の中世前期にあたる土師器が大量に出土していることなどから、短絡的に結びつけることはできない。

今回の踏査結果は、悉皆踏査の強みを活かして見事に遺物密度の濃淡を描き出すことに成功した。この成果は、今後の東大寺領莊園や徳大寺家領般若野荘の現地比定や構造解明に向けた大いなる前進と評価したい。

Tab.11 調査遺跡一覧

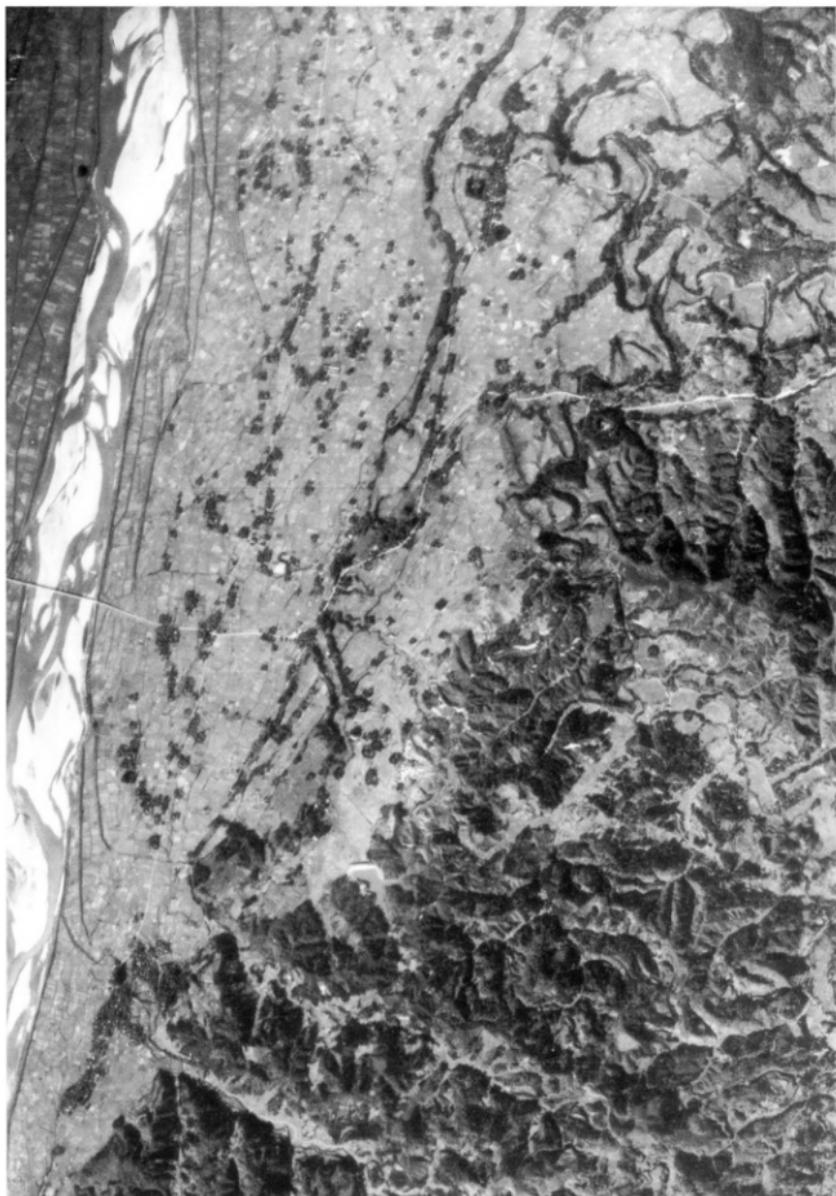
遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	摘要
1	東保北遺跡	砺波市東保字田中	縄文・古代・中世	新規
2	東保田中遺跡	砺波市東保字田中	古代・中世	新規
3	東保大坪遺跡	砺波市東保字大坪	古代・中世	新規
4	東保石坂南遺跡	砺波市東保字石坂	古代	範囲変更
5	208043 東保高池遺跡	砺波市東保字高池	古代・中世・近世	名稱・範囲・内容変更
6	宮森道川島遺跡	砺波市宮森	古代・中世	新規
7	208042 宮森庭寺	砺波市宮森	古代・鎌倉・室町	範囲・内容変更
8	宮森西島遺跡	砺波市宮森	古代・中世	新規
9	208105 宮森遺跡	砺波市宮森	縄文・中世	範囲変更
10	208123 徳万頼成遺跡	砺波市徳万・頼成	縄文・古墳・古代・中世・近世	範囲変更
11	二合宗九郎島遺跡	砺波市二合	古代・中世	新規
12	208052 徳万遺跡	砺波市徳万	縄文・古墳・古代・中世	範囲変更
13	208068 安川口遺跡	砺波市安川	中世	範囲変更
14	安川宮村遺跡	砺波市安川	古代・中世	新規
15	福山遺跡	砺波市福山	古代・中世	新規
16	安川正守遺跡	砺波市安川	古代・中世	新規
17	安川野武士遺跡	砺波市安川	古代・中世	新規

※新規10遺跡、名称・範囲・内容変更7遺跡

参考文献

- 有薗正一郎他編 2001 『歴史地理調査ハンドブック』 古今書院
- 犬伏利之・安西徹郎編 2001 『土壤学概論』 朝倉書店
- 大垣市教育委員会文化部 1997 『大垣市遺跡詳細分布調査報告書 解説編』
- 神島利夫 1982 『地形地質:『地下水利用等基礎調査報告書』 富山県
- 鈴木隆介 1998 『建設技術者のための地形図読図入門 第2巻 低地』 古今書院
- 高橋 学 2003 『平野の環境考古学』 古今書院
- 竹村利夫 1978 『砺波平野南部地域の段丘地形』『地理学評論』vol.51-9
- 地学団体研究会編 1994 『新版地学教育講座 9 地表環境の地学—地形と土壤—』 東海大学出版会
- 砺波市・砺波市土地改良協会 1985 『砺波市ほ場整備完成記念誌』
- 砺波市史編纂委員会 1990 『砺波市史資料編 I 考古・古代・中世』
- 1996 『砺波市史資料編 5 集落』
- 富山县農地林務部ほ場整備課 1981 『土地分類基本調査 城端』
- 1970 『土地分類基本調査 石動』
- 外山秀一 1997 「プラント・オバールからみた砺波平野の土地利用と黒土層の特性」
『砺波散村地域研究所研究紀要第13号』砺波市立砺波散村地域研究所
- 久間一剛他編 1993 『土壤の事典』 朝倉書店
- 深井三郎 1976 『富山の地形と地質』 富山県自然保護課

PL.1 空中写真（1）



この写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真（昭和24年）を複製したものである。（承認番号）平18北復、第151号

PL.2 空中写真（2）



この写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真（平成14年）を複製したものである。（承認番号）平18北緯、第151号

PL.3 調査写真 (1)



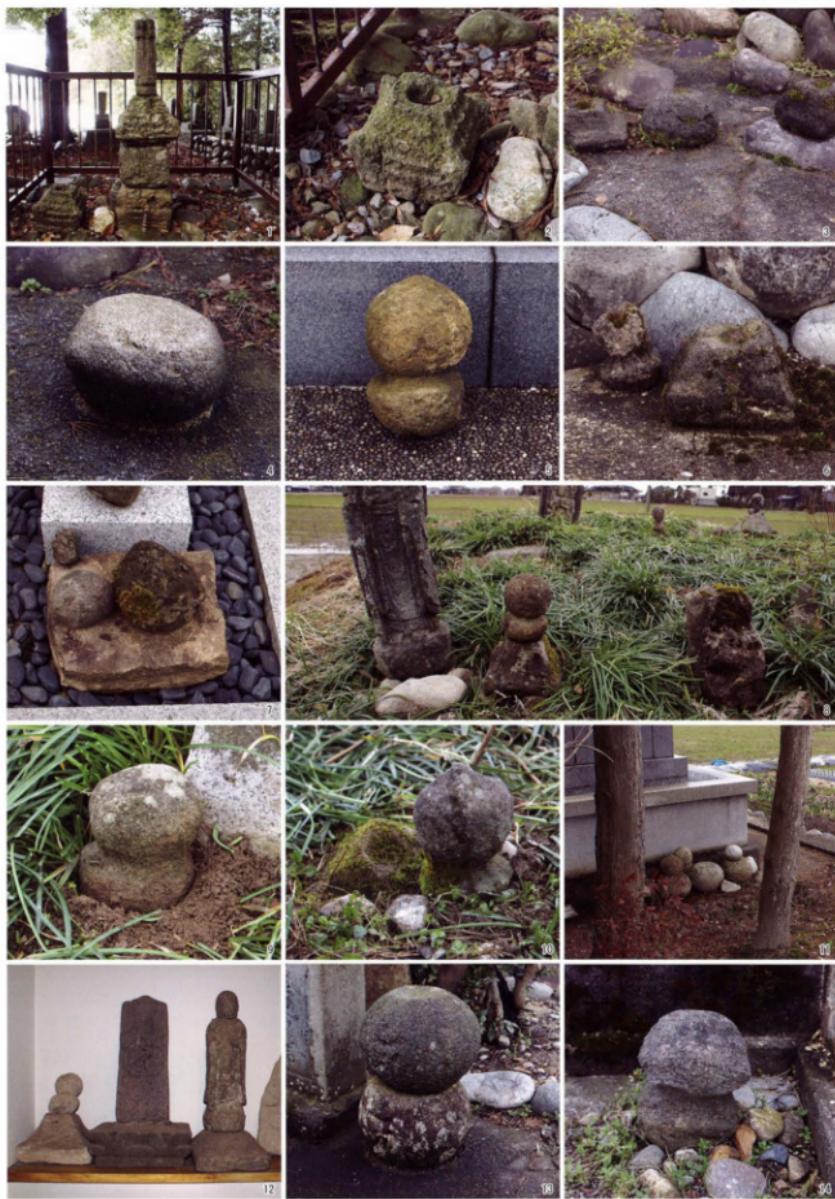
1. 東保北遺跡 2. 東保田中遺跡 3. 東保大坪遺跡 4. 東保石板南遺跡 5. 東保高池遺跡 6. 宮森道川島遺跡 7. 宮森庵寺 8. 宮森西島遺跡

PL.4 調査写真 (2)



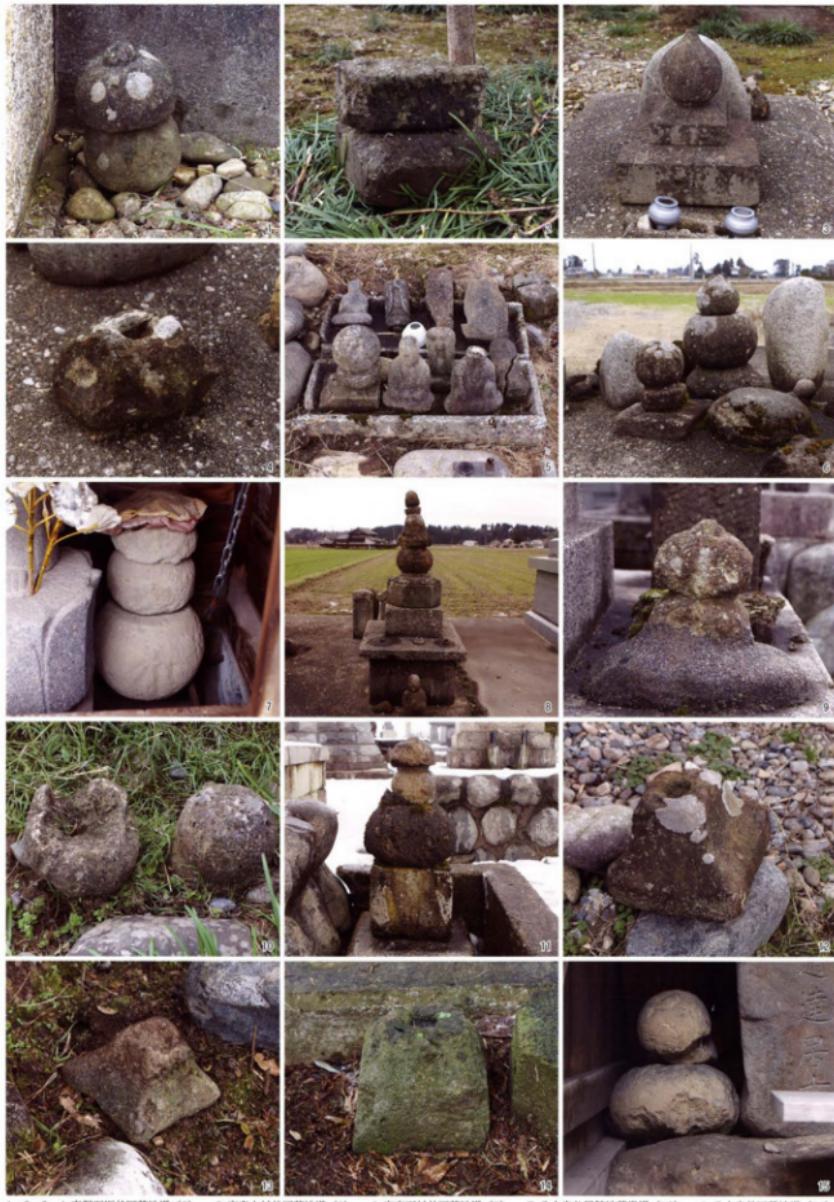
1. 宮森遺跡 2. 徳万頼成遺跡 3. 三合宗九郎島遺跡 4. 徳万遺跡
5. 安川二目遺跡 6. 安川宮村遺跡 7. 福山遺跡 8. 安川正守遺跡と安川野武士遺跡

PL.5 調査写真 (3)



1. 朝塚塔 (20) 2. 薬勝寺塔 (20) 3・4. 鏡音堂塔 (2) 5・6・7. 東保田中共墓地塔 (2) 8・9・10. 長久正治宅裏塔 (3)
11. 江成文雄塔 (4) 12. 净光寺内塔 (5) 13・14. 東保石坂共同墓地塔 (6)

PL.6 調査写真 (4)



1・2・3・4 東保石坂共同墓地塔 (6) 5. 宮森上村共同墓地塔 (8) 6. 宮森下村共同墓地塔 (9) 7. 八十歩公民館地蔵堂塔 (10) 8. 八十歩共同墓地塔 (11)
9. 雄正寺共同墓地塔 (12) 10. 鶴成公文名共同墓地塔 (13) 11. 鶴成坂東共同墓地塔 (14) 12. 徳万北共同墓地塔 (15) 13. 徳万南共同墓地塔 (16)
14. 天高神社境内塔 (17) 15. 天高神社東地蔵堂塔 (18)

PL.7 調査写真 (5)



1. 薬勝寺北墓地塔 (19) 2. 薬勝寺南墓地塔 (20) 3. 薬勝寺参道 (21) 4. 公卿塚塔 (22) 5. 安川二目共同墓地塔 (23) 6. 安川宮村共同墓地塔 (24)
 7. 安川共同墓地塔 (25) 8. 安川共同墓地塔 (26) 9. 谷内裕夫宅塔 (26) 10. 東保大坪・淨光寺と北地藏堂の如来形仏 (5) 11. 東保石坂共同墓地の如来形仏 (6)
 12. 八歩公民館地蔵堂の如来形仏 (10) 13. 安川・薬勝寺南墓地の如来形仏 (20) 14. 東保大坪・淨光寺の板石塔婆 (5) 15. 安川・薬勝寺の板石塔婆 (19)

PL.8 遺物写真 (1)





PL.10 遺物写真 (3)





PL.12 遺物写真 (5)



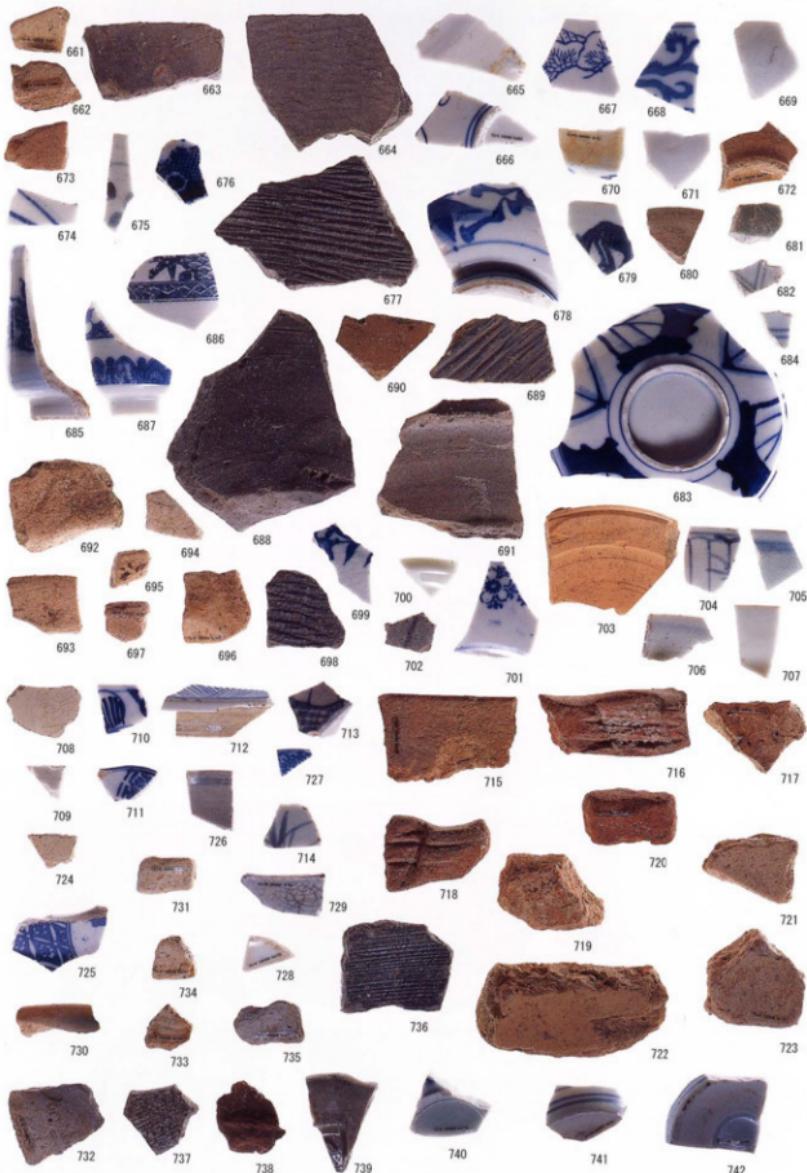


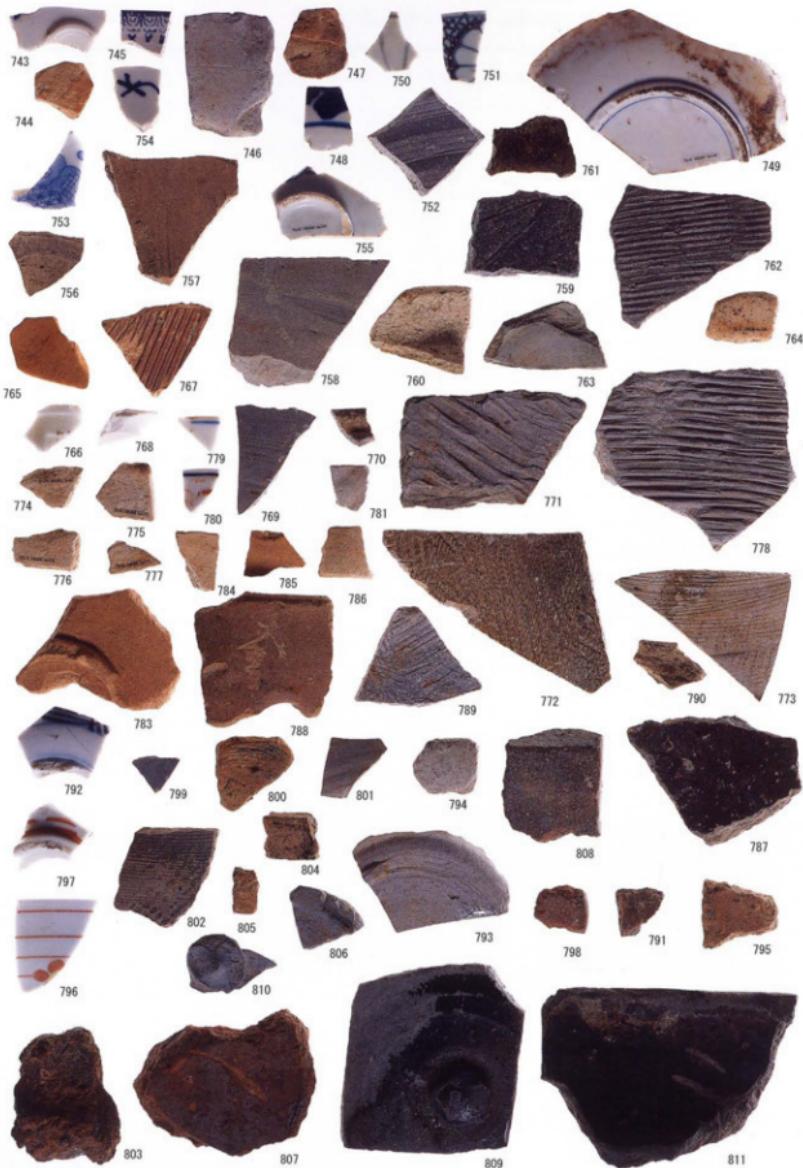
PL.14 遺物写真 (7)





PL.16 遺物写真 (9)





報告書抄録

ふりがな	となみしいせきしようさいぶんぶちょうさはうこく ろく					
書名	砺波市遺跡詳細分布調査報告 6					
期題	般若・東般若					
編著者名	野原大輔（砺波市教育委員会 文化財室）					
編集・発行機関	砺波市教育委員会					
所在地	〒932-0393 富山県砺波市庄川町青島 401番地 TEL0763-82-1918					
発行年月日	平成22年3月26日					
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ一ド 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査原因
し な い い せ き	とやまけんとなみしやすかわちゅのま、らんじょ、とくさん、みあい、とくさんしん、ふくやま、ひがしほ、もとこはやし、あずま、みやもり、ごんじょうじ、やしましまん、はぢからぶ	162086	-	36度39分5秒	137度2分52秒	市内遺跡詳細分布調査事業
市内遺跡	富山県砺波市安川、茶ノ木、根岸、後川、二条、越力新、福山、東側、本小林、東、青森、権守寺、八十島新、八十歩			調査面積	調査期間	
				-	2010.2.1 ~ 2010.3.10	
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
市内遺跡	-	-	-	-		
東保北遺跡	绳文敷石地・古代散布地、中世散布地	绳文・古代・中世	-	-		
東保田中遺跡	古代散布地、中世散布地	古代・中世	-	-		
東保大坪遺跡	绳文敷石地・古代散布地、中世散布地	绳文・古代・中世	-	-		
東保石塚南遺跡	古代散布地	古代	-	-		
東保石塚北遺跡	古代散石地、中世散石地	古代・中世・近世	-	-		
宮森道川遺跡	古代散布地、中世散布地	古代・中世	-	-		
宮森虎寺	古代散布地、中世寺庭	古代・鎌倉・室町	-	-		
宮森山島遺跡	古代散布地、中世散布地	古代・中世	-	-		
宮森遺跡	縄文敷石地、中世散石地	縄文・中世	-	-		
佐万賴成遺跡	绳文復興地、古墳墓有志、古代墓葬地、中世墓地、古墳墓有志	數々調・式・武・律	-	-		
二合宗九郎部遺跡	古代散石地、中世散石地	古代・中世	-	-		
樋万遺跡	绳文敷石地、古墳敷石地	数々調・式・武・律	-	-		
安川二日勤跡	中世散石地	中世	-	-		
安川岩舟遺跡	古代散石地、中世散石地	古代・中世	-	-		
福山跡	古代散石地、中世散石地	古代・中世	-	-		
安川平守遺跡	古代散石地、中世散石地	古代・中世	-	-		
安川野武士遺跡	古代散石地、中世散石地	古代・中世	-	-		

DISTRIBUTION SURVEY REPORT OF THE TONAMI CITY Vol.6

— HANNYA • HIGASHI-HANNYA —

Copyright © Tonami city Board of Education

401 Aoshima Shogawamachi Tonami-City Toyama 932-0393, Japan

No parts of this publication may be reproduced or copied by any means
without prior permission of the copyright owner.

砺波市遺跡詳細分布調査報告6

一般若・東般若一

2010年3月26日発行

編 集 砧波市教育委員会

〒 932-0393 富山県砺波市庄川町青島 401 番地
TEL (0763) 82-1918 FAX (0763) 82-3521

発 行 砧波市教育委員会

印 刷 株式会社アヤト

〒 932-0814 富山県小矢部市赤倉 220 番地 3
TEL (0766) 67-5555 FAX (0766) 67-5111

Printed in Japan

